

平成27年度使用

小学校教科用図書
の
選定に必要な資料

島根県教育委員会

各発行者記号は、次のとおりである。

A	東京書籍	I	光村図書出版
B	大日本図書	J	帝国書院
C	開隆堂出版	K	啓林館
D	学校図書	L	日本文教出版
E	三省堂	M	文教社
F	教育出版	N	光文書院
G	信州教育出版社	O	学研教育みらい
H	教育芸術社		

「選定に必要な資料」の観点は以下のとおりである。

観 点		説 明
1	内容、程度、分量等	記述された内容、程度が、児童の発達段階に適合しているか。また、分量が適切であるか。
2	教材の選択や構成等	取り上げられた教材の選択や構成は、学習を効果的に進めるために適切なものになっているか。
3	興味・関心への配慮等	児童が興味・関心をもって学習できるように工夫されているか。
4	教科の特性、県の実態や課題への適合等	各教科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。
5	発展的学習、自学自習についての工夫	発展的に学習する手立てや家庭で自学自習できる工夫が盛り込まれているか。
6	その他	観点1～5にあてはまらない内容やその他特筆すべき事項
総括		観点1～5及びその他についての記述や感性を育む要素などを総合したその教科用図書の全体的な特徴等

選 定 に 必 要 な 資 料

国 語 No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○6年「プロフェッショナルたち」(p.191)では、自分の将来や生き方について考えることができ、6年間で身に付けた説明文の読みの力を使うよう示されている。</p> <p>○1年の単元は、日常生活に合わせた内容や韻を踏んで楽しめる内容が配置されており、入門期の児童にとって親しみをもって学習を始められるよう配慮されている。</p>	<p>○4年下の「世界一美しいぼくの村」(p.71)と「世界一美しい村へ帰る」(p.154)を読み比べるように構成されている。</p> <p>○3年上「ほげんだより」(p.104)、4年上「広告」(p.97)、5年「新聞」(p.56)、6年「投書」(p.61)と発達段階に応じた読み比べの教材を取り入れ、表し方の工夫や書き手の意図を読み取る力が付くよう工夫されている。</p>	<p>○1年上「ねことねっこ」(p.39)「いしやといしや」(p.64)では、促音、長音、拗音の言葉の学習の導入にリズム打ちを取り入れ、定着が図れるよう工夫されている。</p> <p>○3年下「人物を考えて書こう」(p.27)では、4コマ漫画作文を取り上げ、児童が場面を楽しむながら物語を作ることができるよう工夫されている。</p>	<p>○2年上p.22のように2年以上の各学年に「ノート作り」を配置し、学習の見通しや振り返りなど、学習の構えを作る上で参考となる項目が設定されている。</p> <p>○ローマ字の学習が3年だけでなく4年でも取り上げられ、ローマ字の確実な習得を図れるよう配慮されている。(上p.27)</p>	<p>○3年「調べて書こう。わたしのレポート」(p.76)では、身近な題材をテーマに取り上げてレポート作りを行うなど、調べ学習の基本が学べるよう工夫されている。</p> <p>○3年下「案内の手紙を書こう」(p.44)、4年下「お願いやお礼の手紙を書こう」(p.50)など、総合的な学習の時間と関連付けられる内容となっている。</p>	<p>○「町の幸福論」(6年p.129)では隠岐郡海士町の取組が紹介されており、ふるさと教育につながる内容となっている。</p> <p>○2年以上において「図書館へ行こう」というページが取り入れられ、学校図書館を活用する活動が系統的・段階的に設定されている。</p>	<p>○各単元の学習で付けた力を焦点化し、「言葉の力」として単元末に明示するとともに、巻末には領域ごとに整理した「『言葉の力』のまとめ」を設定し、身に付けた力の振り返りや確認ができるよう工夫されている。</p> <p>○読むことと書くことを関連付けた複合単元を配列し、身に付けた読みの力を発揮することができるよう配慮されている。</p>
D	<p>○4年下「自分の安全は自分で守ろう」(p.24)等、「この単元の学習の流れ」が単元の冒頭に示され、児童が見通しをもって学習に臨めるよう配慮されている。</p> <p>○2年上「お話クイズ大会をしよう」(p.76)では、クイズを出し合う言語活動を通して、読むことのねらいの達成を図ることができるよう配慮されている。</p>	<p>○説明文は2教材で構成され、「読むレッスン」で獲得した力を活用して主体的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○「東京スカイツリーのひみつ」(5年上p.36)では、頭括・尾括・総括型を読み取る、「文章構成の効果を考える①②」(6年上p.62、下p.86)で書く力が身に付くよう工夫されている。</p>	<p>○2年上「ヤマタノオロチ」(p.86)では、島根の神話を取り上げ、郷土への関心をもたせ、児童が興味をもつて読み広げるよう工夫されている。</p> <p>○4年下「これであなかも作家になれる」(p.64)では、漫画のコマを並べ替えたり、吹き出しにセリフを書いたりすることで、お話作りに取り組みやすいよう工夫されている。</p>	<p>○5年上「表やグラフを使って伝えよう」(p.30)では、根拠をもって説明する力を伸ばすために、非連続型テキストを読み取る学習が示されている。</p> <p>○3年下「考えを広げよう、まとめよう」(p.80)や4年上「ドリームツリーを作って発表しよう」(p.54)では、ウェビングマップやKJ法など、思考を整理し表現を広げる方法が示されている。</p>	<p>○6年上「インターネット・コミュニケーション」(p.34)では、家庭における情報機器を使った調べ学習などを行う際に、適切な使い方ができるよう配慮されている。</p> <p>○児童が授業で学んだ言葉などを各学年の巻末の資料編に収め、家庭学習などの拠りどころとなるよう配慮されている。</p>	<p>○巻頭に「学級作り」があり、3年上「コロコロスピーチ」(p.6)では、楽しく言語活動に取り組めるよう配慮されている。</p> <p>○巻末に「保護者の方へ」があり、教科書でめざすことが記載されている。</p>	<p>○2年以上において「読むために書く」ページが設定され、読むことと書くことを組み合わせた学習が行えるよう配慮されている。</p> <p>○巻末の「国語のかぎ」では、当該教科書で学習した内容をまとめて示し、児童の学習の拠りどころとなるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
E	<p>○5年「洪庵のたいまつ」(p.112)6年「宇宙時代を生きる」(p.38)など人物の生き方について考える伝記が取り上げられ、自分を見つめ直し、生き方を考えることができるよう配慮されている。</p> <p>○付箋紙を用いた整理の仕方やインターネットを活用した本の探し方等、発達段階に応じた情報活用の内容が取り上げられている。(4年p.44、5年p.48)</p>	<p>○6年では「ニュースと編集について」「調べるための本」「レポートの組み立て」が螺旋的に配列され情報が活用能力を育成できるよう工夫されている。(p.34、112、154)</p> <p>○教材に登場する新出漢字を直前の「新しい漢字を学ぼう」で先に学習することができるよう工夫されている。</p>	<p>○1年では「おおきなかぶ」(p.76)のように大きな挿絵を取り入れたり、「しっぽしっぽ」(p.62)のように文と挿絵を一致させたりして、ページを繰る楽しみをもたせるよう工夫されている。</p> <p>○3年「カルタを作ろう」(p.172)では身近な遊びであるカルタを自分たちで作る活動を通して楽しみながら文をまとめる力を付けるよう工夫されている。</p>	<p>○学習したことが読書活動に結びつくよう、教材に関連した書籍が単元の終わりに「わたしの本だな」で紹介されており、学校図書館を活用教育につながるよう配慮されている。</p> <p>○2年以上の巻頭に「○年生で学習すること」巻末に「覚えておきましょう」を配置し児童に見通しをもたせたりめあてを振り返ったりすることができるよう工夫されている。</p>	<p>○「アンケートの活用方法」「お願いやお礼の手紙」(5年p.46)等、総合的な学習の時間や他教科等とつながるように配慮されている。</p> <p>○6年「学びを広げる」には、中学で学ぶ常用漢字の一覧が示され(別冊p.20)、発展的な学習を促すとともに、中学校での学習に向けて意欲的に学習を進める工夫がされている。</p>	<p>○6年「わたしたちの言葉」(p.54)では日本語の面白さに気付かせるとともに、対話劇などの言語活動を取り入れ活動的な展開となるよう配慮されている。</p> <p>○3年「南の島へようこそ」(p.170)では、非連続型テキストから条件に合った情報を取り出し、話したり聞いたりできるよう工夫されている。</p>	<p>○別冊教科書「学びを広げる」では、豊かな情操や伝統文化に触れたり、知識・技能を確かめたり広げたりするよう配慮されている。</p> <p>○1年下「あいしているから」(p.4)等、登場人物の心情に迫り、自分の考えを広げたり深めたりすることが可能な教材が示されている。</p>
F	<p>○1年上「すずめのくらし」(p.58)等、説明文の基本形である「問い」と「答え」が繰り返され、文章構成を理解できるよう工夫されている。</p> <p>○6年上「学校案内パンフレットを作ろう」(p.32)ではパンフレット等を作成する活動が設定され、目的に応じて編集を工夫するよう示されている。</p>	<p>○1年下「天にのぼったおけやさん」(p.52)では、教師の読み聞かせを通して児童が昔話に親しみをもてるよう、教材との出会わせ方が工夫されている。</p> <p>○6年上「薫風」(p.16)「迷う」(p.20)等では、随筆の読みを深め、「随筆を書こう」(p.104)では、書く力が付くよう配慮されている。</p>	<p>○2年下「いなばのしろさぎ」(p.78)では、郷土の昔話に関心をもち、巻末の付録を使って楽しみながら神話に親しむよう配慮されている。</p> <p>○しかけ絵や点字の表が取り入れられ、児童が学習に興味をもつことができるように工夫されている。(1年上p.1、2年下巻末、4年下p.89)</p>	<p>○4年上「見学したことを報告しよう」(p.50)では、テキストやグラフ等複数の資料を根拠にして文章を作成する力が付くよう工夫されている。</p> <p>○全学年で系統性のあがる図書館活用計画が位置付けられ、発達段階に応じて内容が工夫されている。</p>	<p>○2年上「たんけんしたことをつたえよう」(p.54)では、カードにまとめて活用する活動をし、生活科等で生かせるよう工夫されている。</p> <p>○6年上「考えや意見をノートにまとめよう」(p.14)ではウェブマップを取り上げ、他教科の学習における課題設定等に活用できるよう配慮されている。</p>	<p>○3年上「気持ちをつたえる話し方・聞き方」(p.76)では、気持ち伝わりやすい話し方や話しやすい聞き方を体験しながら学べるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に「これから」を配置し、国語の学習を振り返るよう配慮されている。</p>	<p>○各学年に日本の文化を取り扱う小単元を設け、語句や短歌・俳句等を取り上げることで、伝統的な言語文化に触れられるよう配慮されている。</p> <p>○物語教材から幅広い読書活動へ広がるように、教材が系統的に構成されるとともに、情報活用能力が高まるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
I	<p>○1年下「しらせたいな、見せたいな」(p.18)では、学校にいる生き物等を家族に知らせるといった目的で、絵に表し、次にそれを文章化させるプロセスを経ており、入門期の児童にとって学習過程が配慮されている。</p> <p>○「聞いて楽しもう」では3年「たのきゅう」(p.62)のように、教師による読み聞かせの後、意見交流を行う工夫がされている。</p>	<p>○3年以上の説明文は2つの教材で構成され、3年上「言葉で遊ぼう」(p.40)のように、前段の教材において段落構成や読みの手がかりを示す配慮がされている。</p> <p>○6年「未来がよりよくなるために」(p.92)では、単元全体の流れが示され、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で求められる力を主体的に付けられるよう配慮されている。</p>	<p>○1年下「むかしばなしがいっぱい」(p.40)では、国内外の多くの昔話を連想させるイラストが見開きに描かれ、興味・関心をもって本に触れようとする動機付けを図るよう配慮されている。</p> <p>○「カンジー博士」のコーナーでは、しりとりやクイズ、暗号など、児童が興味・関心をもって取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○物語教材に続き「本は友達」が配置され、「『読むこと』について考えよう」(4年p.90)のように、学習計画や見通し、振り返りを示すよう配慮されている。</p> <p>○5年「あめ玉」(p.14)では、学習問題が提示され、4年までの既習事項を使って主体的に学習できるよう配慮されている。</p>	<p>○2年上「かんさつ名人になろう」(p.34)では、観察の観点や記録文の書き方が丁寧に示され、生活科の学習に生かすことができる内容となるよう配慮されている。</p> <p>○物語文の単元の末尾に「この本、読もう」を配置し、本編以外に作者が著した作品が紹介されており、児童の読書活動を促す工夫がされている。</p>	<p>○2年以上の全学年において「季節の言葉」のページを設け、季節感を育む言葉に触れる機会をもてるよう工夫されている。</p> <p>○4年下「『クラブ活動リーフレット』を作ろう」(p.44)では、活動の流れやポイントが示されており、児童が学習のめあてを把握しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○各単元の終末の「たいせつ」、巻末の「『たいせつ』のまとめ」では、学習目標の明確化から知識・技能の整理や振り返りまで、児童自身が何を学ぶのかを意識し、身に付けた力を確認できるよう配慮されている。</p> <p>○2年以上の各学年において「○年生の学習を見わたそう」を巻頭に配置し、1年間にわたる当該学年の学習の見通しをもたせるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○硬筆の教材については、日常の書写活動を意識して分量のあるものを準備するとともに、4～5行にとどめて児童への負担過多とならないよう配慮されている。(4年p.26)</p> <p>○運筆や点画の接し方などがよく分かるよう、色分けや濃淡で、穂先の動き、点画のつき方等を示し、児童の理解を助けるよう配慮されている。(5年p.18、2年p.22～23)</p>	<p>○5年p.22のように各単元の毛筆の学習後の「硬筆に広げよう」のコーナーで、毛筆と硬筆を一体化して学習が進められるよう配慮されている。</p> <p>○低学年では「～かな?」、中学年では「調べよう」等学習課題を問いかけ、高学年からは「学習の進め方」を明示し、問題解決的な学習が行えるように工夫されている。(2年p.22、3年p.18、5年p.8)</p>	<p>○低学年では「できたよ!シール」を用い、めあてを意識させて自己評価をさせたり、中・高学年では「学習を振り返ろう」「自分のめあてを決めよう」を適宜設けたりして、児童が意欲を高め、主体的に学習するための支援と配慮がされている。</p> <p>○4年p.15のように、身の回りの文字について話し合う活動や現代の書家の作品を取り上げ、文字文化への興味・関心を高めるよう配慮されている。</p>	<p>○3年p.34のように全学年に掲載の「生活に広げよう」では、調べ学習や観察記録を取り上げ、各教科との関連を図ったり、ふるさと教育のまとめなどに生かしたりするよう工夫されている。</p> <p>○5年p.34のように全学年に掲載の「書いて味わおう」では、発達段階に合わせて名文などが美しい写真と共に取り入れられ、伝統的な言語文化にふれることができるよう工夫されている。</p>	<p>○自分で目標を設定して学習できるよう見出しや左ページ端の爪に学習のステップを示し、児童が見通しをもって学習できるよう工夫されている。(5、6年p.6)</p> <p>○学習の前後で自分の字を比較し、学習の成果を確かめられるよう工夫されている。(2年p.2、5年p.26)</p>	<p>○1年p.12のように点画の書き方を運動のイラストでイメージ化し、認知の特性や手指の運動性への配慮がなされている。</p> <p>○6年p.49のように書き手の思いが込められた文字の実例が多く取り上げられ、文字表現の広がりや奥深さを感じさせるよう工夫されている。</p>	<p>○版形をワイド版にし、写真や図、イラストを大きめに掲載したり、教材を見開きで示したりして学習の内容がわかるような編集の仕方が工夫されている。</p> <p>○「とめ」「はらい」「筆順」等の学習内容をアイコンで示し、1、2年はシールで、3年生以上は左ページ端の爪で確認するようにし、6年間で系統的に学習を進められるよう工夫されている。</p>
D	<p>○1つのマスを4つの部屋に区切り、書き始めの位置と方向を三角形で示すなどして、児童が書き始める場所と書いていく向きが分かりやすいよう配慮されている。(1年p.6)</p> <p>○教材とする漢字にできるだけ当該学年での新出漢字を取り上げ、学年に応じた難易度となるよう工夫されている。(4年p.11、6年p.13)</p>	<p>○1～6年まで一貫してイラストキャラクターがめあてとポイントを示しながら学習を進めていく構成をとっており、児童自身で学習が進められるよう工夫されている。(3年目次)</p> <p>○3年生以上では、毛筆学習の後に「硬筆に生かそう」を設け、双方で学んだことが生かせるよう教材構成が工夫されている。(3年p.24)</p>	<p>○写真資料や上達していく過程の作品資料、練習の方法を示す資料などを取り入れ、児童が自分の学びを具体的にイメージできるよう配慮されている。(5年p.3、4)</p> <p>○低学年は、興味をもって楽しく学習できるように、シールが用いられ、めあてに対する自己評価ができるよう配慮されている。(2年巻頭)</p>	<p>○自主的な学習態度を育てるために、1年間で学習したことのみをまとめて、自分のめあてを立てて、自分で課題の字を選び、筆使いに注意して書くよう工夫されている。(3年p.40)</p> <p>○書き始めの位置、余白の取り方、メモの仕方など実際の場面に合わせて具体的な注意事項が示されており、実生活での活用ができるよう配慮されている。(4年p.26、5年p.23)</p>	<p>○6年では、発展として中学校で学習する行書について、点画の特徴とともに1ページ分の手本で示されている。(6年p.34)</p> <p>○3年以上の「硬筆に生かそう」では、はがきや手紙の書き方、メモの取り方をくわしく掲載し、書写の力を実際の生活の中で活用できるよう配慮されている。(3年p.24)</p>	<p>○裏表紙に、「保護者の方へ」として、「単元・学習の内容・めざすこと」が示されており、家庭との連携が意識されている。</p> <p>○全学年にわたって教材の文字に筆順を示す数字を小さく付記し、児童が正しい筆順を身につけられるよう配慮されている。(1年p.16、5年p.17)</p>	<p>○全学年で「しょしゃのがくしゅうのしかた」(1年p.26)「毛筆学習の進め方」(3年p.20)を示し、児童が学習の見通しをもちやすくする配慮がされている。</p> <p>○1、2年の「楽しんで書こう」では、童謡、数え歌、3年からの「硬筆に生かそう」では、俳句、短歌、詩を用いて、日本語のリズムを楽しみ、伝統的な言語文化に親しめるよう工夫されている。(1年p.36、6年p.21)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
E	<p>○毛筆学習の導入段階においては、「ほ先はいつも上のはし」のように学習内容のポイントを凝縮した一文で示し、児童が合言葉のように意識して学習できるよう配慮されている。(3年p.8)</p> <p>○素材に文字単体が多く、基礎・基本を一つ一つおさえながら学習を進められるよう工夫されている。(1年p.18)</p>	<p>○1～4年では、点画や字形、配置等基礎・基本を確実に習得し、5、6年では生活に生かす面に重点を置き、手本のない課題を中心とした構成が工夫されている。(5年p.12、6年p.20)</p> <p>○高学年では、硬筆学習の後に毛筆学習を位置づけ、自分の課題を見つけて毛筆学習に取り組むよう工夫がされている。(6年p.8)</p>	<p>○巻頭折込部分では、生活や歴史、道具などと結びつけながら、多様な切り口で、書写学習への興味・関心をもたせるよう工夫されている。(4年巻頭)</p> <p>○5年「ひろげよう」(p.22)では、自分たちの教室の文字環境について見直し、計画を立てて実際に改善するという実践的な学習が設定され、児童が学習の成果を発揮し、実感できるよう配慮されている。</p>	<p>○「ひろげよう」という活用の単元では、4年「お礼の手紙を書こう」(p.18)のように、地域の人や身近な人との関わりの中で学習したことをまとめるときに書写の学習を生かすことができるよう配慮されている。</p> <p>○「おかしところを見つけてみよう」という課題が設けられ、児童が思考・判断しながら学習内容を身につけられるように工夫されている。(2年p.20)</p>	<p>○メモをとる学習では「速く書くことに適した書き方」として楷書の許容の字体とともに行書を紹介し、中学校での学習との接続を意識できるよう工夫されている。(6年p.23)</p> <p>○6年では資料「書写学習のヒント」を巻末に掲載し、日常生活に必要な書写の知識を3ページにまとめ、実際に文字を書く場面に役立てられるよう配慮されている。(6年p.33～35)</p>	<p>○2年p.6～7のように、児童が学習に集中できるよう、写真、イラスト等の情報量を抑え、教材を中心とした紙面構成が工夫されている。</p> <p>○上部に説明、下部に実際に書く欄という配置に統一され、児童が学習に取り組みやすいよう配慮されている。(1年p.8～9)</p>	<p>○単元でおさえたい内容や解説をシンプルに示すように工夫されている。</p> <p>○2年「おれいの気持ちを伝えよう」(p.36)、4年「お礼の手紙を書こう」(p.18)、6年「お世話になった人へメッセージをおくろう」(p.30)のように、地域の人との交流がテーマとなる学習課題が設定され、生活に書写の学習が生かせるよう工夫されている。</p>
F	<p>○1年の指書きや空書き、3年の毛筆の道具の扱い方など、絵図や写真資料をもとに入門期の指導がていねいに行えるよう工夫されている。(1年p.8、3年p.3)</p> <p>○4～6年では、「はじめの学習」として姿勢と持ち方等前学年のまとめが掲載されており、これまでの学習を振り返ることができるよう工夫されている。</p>	<p>○3年以上の単元では、学習の始めと終わりに書く「ためし書き」「まとめ書き」の欄が並べてあり、児童が学習の成果を自分で確かめられるよう工夫されている。</p> <p>○1年「しよしゃのたいそう」や1～4年「よい姿勢の合い言葉」など児童にわかりやすい言葉を用いて継続して姿勢や運筆の基本を定着させることができるよう配慮されている。(1年p.42～43)</p>	<p>○3年p.39のように3年以上では、これまで学習してきたことの中から、自分でめあてを設定する単元を設け、児童自らめあての解決に向かって学習を進められるよう工夫されている。</p> <p>○全学年巻頭折込で、文字と生活との関わりを取り上げ、書写と生活の結び付きを児童に意識させ、書写学習への興味・関心を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○「おすすめの本を紹介しよう」では、「おすすめ図書カード」や「読書カード」「本の帯」を作るなど、読書と関連のある活動が紹介されている。(3年p.43)</p> <p>○「トライあんどチャレンジ」では、「算数で生かす」のように他の教科の学習で書写の学習をどのように生かせるかを具体的な例をあげて示している。(2年p.24)</p>	<p>○6年p.39のように、「はってん」というマークで全学年を通して発展的な内容が明示されている。また、保護者・教員向けのこのマークについての説明が裏表紙に示されている。</p> <p>○3年からは、毛筆の学習を硬筆に生かすという「学習の進め方」がイラストやマークを使って示され、児童が見通しをもって学習を進められるよう工夫されている。(4年p.10)</p>	<p>○「筆記用具とらの巻」のコーナーでは、身近な筆記用具の特徴とどのような場面に適しているかを紹介し、日常生活に結びつけるよう配慮されている。(2年p.41)</p> <p>○穂先に朱墨をつけて書く方法を紹介し、自分の書いた字の穂先の動きが自分で分かるよう工夫されている。(3年p.48)</p>	<p>○「学年のまとめ」には文学作品の一節が素材文として取り上げられ、書写しながら優れた表現を味わえるよう工夫されている。(4年p.41)</p> <p>○学習したことを生活の中に生かす単元「書いて伝えよう」では、1年はカード、2年は招待状、3年は本の紹介のように発達に応じた社会的な広がり意識された素材が取り上げられている。(1年p.34、2年p.32、3年p.43)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

書 写 No.3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
I	<p>○低学年では、言葉による説明を少なくし、文字や図を大きくしてある。また、なぞり書きや指書き、空書きをていねいに行うよう工夫されている。(3年p.10)</p> <p>○3年の毛筆学習の導入では、「筆の持ち方」「力の入れ方」についての学習をていねいに行うようにし、毛筆学習を進める上でのつまずきを少なくしようとする配慮がされている。(3年p.6、20)</p>	<p>○2年p.10～21のように「はらい」「おれ」「そり」「点」「画」のつき方と交わり方について、それらのバリエーションを具体例をあげながら示し、正しい点画の書き方が身に付くよう配慮されている。</p> <p>○単元に入る前に試し書きを行うコーナーを設け、単元の学習後のまとめ書きと比べることで、児童が学習の成果を確かめやすくするよう工夫されている。(5年p.5)</p>	<p>○漢字の組み立てを考える際に、文字の一部をシールで貼り付けるように工夫し、児童が興味をもって考えることができるよう配慮されている。(4年p.16、17)</p> <p>○毛筆の学習では、穂先に注意を向けるため、「ななめほさきちゃん」を登場させ、ほさきちゃんの表情から正しい穂先の位置を身につけられるよう工夫されている。(3年p.10)</p>	<p>○国語の他の領域の学習と関連付けた単元を学年に1つ設定し、書写の学習を活用する場面を設け、学習内容を習得させるよう工夫されている。(1年p.16)</p> <p>○3～5年では見学のお礼の手紙の書き方が縦書き、横書きの両方で紹介され、ふるさと学習等、地域の人にお世話になったときに参考にできるように工夫されている。(5年p.32)</p>	<p>○3年の巻末には、1～3年で学習する漢字がすべて毛筆で書かれており、それを手本に色々な言葉を毛筆で書くことに進んで取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○6年生の巻末には、「発展」として中学校で学習する行書が紹介され、楷書との比較によりその特徴が示されており、円滑な接続が促されるよう配慮されている。</p>	<p>○「まとめ」の単元には、その学年で学習した内容が1ページに示されるとともに、1年間の学習を整理して確実に習得できるよう工夫されている。</p> <p>○1年の学習の最初に「えんぴつの単元を設定し、これからの学習を支える基礎を確実に習得させるよう配慮されている。</p>	<p>○6年p.6のように、実際に児童が学習していくときに具体的に例を示しながらていねいに学習を進めていけるよう工夫されている。</p> <p>○目次では「学習の見通しをもとう」のように、学習内容が見開きで分かるように示してあり、児童が見通しをもって学習できるよう工夫されている。</p>
L	<p>○低学年の硬筆学習では、鉛筆の先が見える持ち方を取り上げ、教材について1ページを使って大きく示したりして、入門期の児童に配慮されている。(1年p.4、8)</p> <p>○3年の毛筆学習の導入に「筆となかよくなるう」の単元を設定し、いろいろな線を書いてみたり毛筆で絵を描いてみる等、毛筆学習への抵抗を少なくするよう配慮されている。</p>	<p>○「思い出して書こう」の単元が学年始めに設けられ、既習事項の確認をしたうえで当該学年の学習に入っていくよう工夫されている。(5年p.9)</p> <p>○全学年を通して「考える」「確かめる」「いかす」という学習過程をとっており、書写の学習の仕方が6年間で身に付くよう工夫されている。</p>	<p>○全学年に同じキャラクターを用い、キャラクターの吹き出しに注意事項やヒントを提示し、児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。</p> <p>○とびらに4コマ漫画でその学年での学習の中心を示し、児童が興味・関心をもって学習を始められるよう配慮されている。</p>	<p>○6年p.32の「筆記具の特ちょうをいかして書こう」のように、課題について各自で考えた後、みんなで話し合いによって学びを深める学習ができるよう工夫されている。</p> <p>○「広がる学び」のコーナーを設け、実際の生活に生かすための具体的な方法を提示したり、毎日の生活や他の学習に広げられるよう配慮されている。(3年p.36)</p>	<p>○2、4、5、6年の巻末に「チャレンジ」のコーナーが設けられ、毛筆、余白、行書等について、発展的な学習ができるよう工夫されている。また、裏表紙に教師や保護者への説明がされている。</p> <p>○4年p.44のように3年生以上に「字形が整う3つのポイント」をそれぞれの学年の漢字を用いて示し、実際に文字を書く場面で確かめられるように工夫されている。</p>	<p>○学習漢字一覧表には全ての漢字について筆順を分割式で示し、児童が自分で筆順を確かめられるよう配慮されている。</p> <p>○3年p.43のように3、4年には、毛筆によるひらがな表が提示してあり、小筆を使って色々な言葉を書くことにチャレンジできるように工夫されている。</p>	<p>○全学年を通して「もっと書こう」の単元では、国語の「書くこと」の学習と関連させ、実際に文字を書く場面を設定し、学習したことを生かせるよう工夫されている。</p> <p>○6年p.39のように「まとめ」には唱歌や俳句、百人一首などを素材として取り上げ、伝統的な言語文化に親しめるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

社 会 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○各学習活動において考えられる活動内容や必要な知識についてまとめられているとともに、写真等の資料もふんだんに使われ、学習の道筋がわかりやすく示されている。</p> <p>○児童が「つかむ」「しらべる」「まとめる」「いかす」という見通しをもって問題解決的な学習に主体的に取り組めるよう配慮されている。</p>	<p>○選択教材が用意されている単元では、地域の実態に応じてどの教材を選択しても同じように学習できるよう配慮されている。(3・4年下p.20～33)</p> <p>○5年下「自然災害を防ぐ」(p.128～137)や3・4年上「市のようす」(p.20～41)のように、すべての学年で東日本大震災を取り上げるなど、現代の社会事象について考えられるよう配慮されている。</p>	<p>○活動の様子が写真で紹介されており、多様な学習方法に興味をもてるよう工夫されている。(5年下p.94～95)</p> <p>○身近な地域(松江市、出雲市、大田市)の優れた伝統や文化、史跡が教材として取り上げられている。(3・4年下p.124～125、6年上p.25、73、巻末の年表)</p>	<p>○5年上「わたしたちの国土」(p.9)、6年上「新しい日本、平和な日本へ」(p.151)では、竹島問題等の領土に関する問題について紹介されている。</p> <p>○6年上p.12～15の絵図、p.68の年表等、時代の様子や人物と社会の関わりなどが一見して比較でき、学習問題を把握しやすいよう配慮されている。</p>	<p>○各単元の終わりに、学習してきたことを生かしてより深く学びを広げていける「ひろげろ」という題材を提示することにより、児童の学びの広がりにも配慮している。</p> <p>○6年下「ひろげる～中学校に向けて」(p.110)やさくいんの提示など、中学校の社会科の学習にスムーズに移行できるよう配慮されている。</p>	<p>○6年下「子育て支援の願いを実現する政治」をはじめ、児童が利用したことがあるであろう施設や体験など、身近なところから学習へと導入されている。</p> <p>○地図の読み取り(3・4年上p.17)、地図帳、地球儀(5年上p.5)を取り上げるなど、これらを効果的に活用できるよう配慮されている。</p>	<p>○調べる際に話を聞く人が多く紹介されており、事柄を知るだけでなく、そこに生きる人や願いを知ることができ、社会科のねらいに迫る工夫がなされている。</p> <p>○学習をしていくうえで重要な語句を「ことば」として示し、単元の終末では「ことば」を使って学習が振り返られるよう工夫されている。</p>
F	<p>○単元導入時の写真や資料を大きく配置するとともに端的な文章で必要な事項をまとめており、見やすい紙面となるよう配慮されている。</p> <p>○問題解決的に学習を進められるように、「活動」「キーワード」「学習問題」「学習のてびき」などについて説明してある「教科書の使い方」が示されている。</p>	<p>○5年上「食料生産を支える人々」では、中心教材である「米作り」「水産業」の様子が詳しくとらえられるよう構成されているとともに、要点がつかめるよう端的にまとめられた選択教材が複数用意されている。</p> <p>○新エネルギーであるシェールガスやバイオマスなど新しい話題を積極的に取り上げている。</p>	<p>○児童がさまざまな学習活動に取り組んでいる様子が写真で紹介されており、調べ活動などに見通しをもって取り組めるよう工夫されている。(3・4年下p.46～47)</p> <p>○「自然条件と人々の暮らし」において、自分たちが住んでいる地域の様子と比べることにより、より意欲的に学習に取り組めるよう配慮されている。(5年上p.21～22)</p>	<p>○5年上「わたしたちのくらしと国土」(p.12)、6年上「平和で豊かな暮らしをめざして」(p.144)、6年下「世界の中の日本」(p.43、52)では、竹島問題等の領土に関する問題について紹介されている。</p> <p>○6年下「憲法と私たちのくらし」(p.32～33)で、様々な人権課題を取り上げ、人権を尊重し合う社会について考えるよう工夫されている。</p>	<p>○「深める」では、新聞づくり(6年上p.36)や意見文の書き方(6年上p.146～147)についての説明があり、自ら学習を進めていく手立てが工夫されている。</p> <p>○各単元の終末には学習内容に関わる人、もの、ことについて紹介する「もっと知りたい」のページがあり、学びを深めていけるよう工夫されている。</p>	<p>○浜田港や石見銀山(5年上p.75、5年下p.62)が掲載されており、他の地域を調べたり比較したりして学ぶ動機づけとなっている。</p> <p>○「わくわく！社会科ガイド」では、様々な調べ方が具体的に紹介されている。(3・4年上 p.122)</p>	<p>○児童のノートの例を示したり児童のイラストに吹き出しをつけたりして、社会的事象に疑問をもち、追究し、まとめていく学習の様子を児童の姿から示し、児童主体の学習につながるよう配慮されている。</p> <p>○単元の終わりにキーワードを活用して学習のまとめをする活動を設け、思考力が育つよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
I	<p>○「教科書をヒントに学習を進めよう」で、学習問題の見つけ方、調べ方、まとめ方について、学年段階を考慮して説明されている。</p> <p>○ホップ(見つける)、ステップ(調べる・話し合う)、ジャンプ(まとめる・広げる)という学習過程が明示され、見通しをもって学習が進められるよう配慮されている。</p>	<p>○5年「地形の特色と人々の暮らし」では、中心教材である山地にすむ人たちの暮らしの様子が詳しくとらえられるよう構成されるとともに、要点がつかめるよう端的にまとめられた選択教材が複数用意されている。</p> <p>○情報化社会への対応について、防災と関連づけた選択教材を設け、児童が自らの課題としてとらえることができるよう工夫されている。(5年p.166～173)</p>	<p>○「ごみのゆくえ」で学校のごみを、「くらしをささえる水」で学校の水道の様子を取り上げ、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。(3・4年下p.40、62)</p> <p>○各単元のタイトルを学習課題で示し、活動のめあてがとらえやすいよう工夫されている。</p>	<p>○5年「日本の国土」(p.17)、6年「戦争の時代から平和の時代へ」(p.143)において、竹島問題等の領土に関する問題が記述されている。</p> <p>○6年「大昔の人々の暮らしを劇にしよう」では、自分たちの住んでいるふるさとの歴史に視野を広げるように配慮されている。(p.28～29)</p>	<p>○学習のまとめの活動では、「旅行計画書を作ろう」(3・4年下p.114～115)、「家で魚料理に挑戦しよう」(5年p.92)など、様々な方法を提示し、学習と家庭でのくらしがつながるよう工夫されている。</p> <p>○「水の旅すごろくを作ろう」など、児童が主体的に学習できるよう工夫されている。(3・4年下p.72～73)</p>	<p>○巻末の「これまでに学習したたいせつ」で、前学年までの学習内容や生活に役立つ事らをまとめて示している。</p> <p>○6年巻末にある年表に「今の自分の写真をはったり、絵をかいたりしよう」コーナーをつくり、歴史と自分のくらしをつなげてとらえられるよう工夫されている。</p>	<p>○単元の初めに大きさやレイアウト、アングルを工夫した写真や絵を配置し、意欲的に学習が進められるよう配慮されている。</p> <p>○5、6年は各学年1冊となっており、年間を見通したり振り返ったりしながら学習できるよう配慮されている。</p>
L	<p>○単元初めの「学習のまど」で学習の見通しがもてるように、また、終末の「ふりかえってみよう」で視点を明確に活動が振り返られるよう工夫されている。</p> <p>○「この教科書のしくみ」で「わたしの問題」～「わたしの見方・考え方」のまとまりを繰り返す学習の進め方を説明し、この方法を貫いている。</p>	<p>○選択教材においてもそれぞれに「振り返ってみよう」が設けられ、いずれの教材を選択しても十分な振り返りができるよう配慮されている。(3・4年上P.90～91、106～107)</p> <p>○東日本大震災や福島第一原発、富岡製糸場など新しい話題が取り上げられており、ニュースと学びが結び付けられるよう工夫されている。(5年下p.107)</p>	<p>○「住みよいくらしをつくる」を「安全なくらしを守る」の前に配置し、くらしと学習とのつながりが実感しやすいものから学習が展開されるよう工夫されている。(3・4年下)</p> <p>○小泉八雲原作の「稲むらの火」(3・4年下p.107)、隠岐から都の貴族へ送った税の札(6年上p.29)など、郷土の歴史・文化に関心を向けられるよう工夫されている。</p>	<p>○5年上「日本の国土と人々のくらし」(p.9)、6年上「新しい日本へのあゆみ」(p.163)では、竹島問題等の領土に関する問題が記述されている。</p> <p>○「振り返りシート」などが例示されていることで、言語活動の在り方がイメージしやすく、充実できるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元終末の「大きくジャンプ」では、学習を深めていくことができるよう配慮されている。</p> <p>○「やってみよう」や「考えるヒント」など、学習の定着を図るための活動や資料の読み取りに向けたヒントを示し、学び方を習得できるよう配慮されている。</p>	<p>○重要語句をキーワードとして示し、本文中にも太ゴシック体で示すことで、進んで読み進めていくことができるよう配慮されている。</p> <p>○「地図となかよしになろう」では地図帳の使い方を集中的に扱い、活用ができるよう工夫されている。(3・4年下P.2～15)</p>	<p>○学習問題とそれに対するまとめが明示されており、習得すべき内容がわかりやすく示されている。</p> <p>○巻頭の「問いの旅」では問題解決的な学習の見通しを示し、児童が主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○大きさがA4判になっており、文字や記号が大きく表してある。</p> <p>○地図帳の使い方（小学校の基礎・基本となる地図記号、縮尺、方位、さくいん）や地図の読み取り方が4ページにわたり説明されている。（p.9～12）</p>	<p>○南西諸島（p.14、15）や新潟県（p.36）オセアニア（p.61～62）について、全体像が分かるように示されている。</p> <p>○小6の歴史学習に関わる地名や旧跡など地形図の中に多く掲載され、統一して青囲みで示されている。</p>	<p>○「日本の地形」では、世界自然遺産の写真など、多くの写真が掲載されており、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。（p.4～5）</p> <p>○各地方のページでは、地方の特産品や有名な建造物などのイラストやマークが多く掲載されており、児童の関心が高まるよう工夫されている。</p>	<p>○中国地方のページには隠岐諸島を囲みにせずに示されるとともに、竹島の位置（方位や距離）を取り上げ示されている。（p.23～24）</p> <p>○日本の歴史と文化のページに出雲大社のイラストや、石見銀山遺跡の写真と解説が示されている。（p.71～72）</p>	<p>○各ページのキャラクターのセリフが問いかけの形で示されており、発展的学習や自学自習を促すよう工夫されている。</p> <p>○マイインデックスの欄が設けられており、児童が行ったことがある所や行ってみたい所を書き込めるように工夫されている。（p.88）</p>	<p>○日本の自然災害のページでは海底のプレートやトラフを掲載し、地震の大きさを円で表現している。（p.89～91）</p> <p>○首都東京のページには東京オリンピックの予定会場が示され、関心をもてるよう工夫されている。（p.43～45）</p>	<p>○地形図について、土地の高低差をとらえやすい色づかいがされており、立体的に見えるよう工夫されている。</p> <p>○地域の特産品や有名な建造物がイラストやマークで大きく記され、読み物としても活用できるよう工夫されている。</p>
J	<p>○大きさが横長A4判になっており、1ページ当たりの情報量が多く、紙面を効果的に使って構成されている。</p> <p>○「地図帳の使い方」では、地図の使い方を身に付けるための課題が設定されるなど、地図学習の導入期に必要な基本的な事項を学習できるようにしている。（p.5～10）</p>	<p>○p.21やp.27など、日本の各地方の囲み地図では、環境や防災などのテーマで地域学習できるように工夫されている。</p> <p>○「私たちの地球」では、平面で捉えさせるのではなく球面で捉えさせたり、日本中心ではない地球を見せたりする工夫がされている。（p.51～52）</p>	<p>○首都東京は鳥瞰図を用いて表現し、視覚的に興味を引くようにしている。（p.41～43）</p> <p>○世界地図では、地形図の下部に国旗や写真を必ず掲載し、世界の国への興味が高まるよう工夫されている。（p.53～62）</p>	<p>○日本列島の地形図に「竹島」の写真と解説が掲載されている。（p.16～17）</p> <p>○日本の歴史のページには石見銀山が明記されている。（p.70）</p>	<p>○キャラクターのセリフが問いかけの形で示されており、発展的学習や自学自習を促すよう工夫されている。</p> <p>○「日本の都道府県」には47都道府県の代表的な産物や建物がイラストで記されており、児童が調べられるよう工夫されている。（p.2～3）</p>	<p>○「日本列島」では、北方領土、竹島、尖閣諸島の写真と解説が掲載されている。（p.13～18）</p> <p>○「日本の歴史」には年表を掲載し、歴史上の出来事を地図帳に合わせて調べられるよう工夫されている。（p.69）</p>	<p>○地形図について効果的な色づかいがされており、土地利用の様子がわかるよう工夫されている。</p> <p>○地域の様子やそこに住む人々の様子を鳥瞰図、囲み地図などでとらえることができるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

算 数 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○3年上p.68のように学習の入口では、既習内容を振り返る活動を取り上げ、新しい内容に入っていけるよう工夫されている。</p> <p>○6年p.63のように基礎的な問題に塗りつぶしがされていたり「ほじゅうもんだい」が用意されていたりして、能力に応じて取り組める仕組みになっている。</p>	<p>○3年下p.60のように話を図や式に表し、児童の理解を深めてから算数の問題場面を図に表すという構成がなされており、図や式に表して考えることをスモールステップで示すという配慮がなされている。</p> <p>○2年下p.43のように「考えようつたえよう」を設定し、式を読んだり考え方を説明したりする活動に取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○円周率の計算に挑戦した数学者を紹介している。外国の学者だけでなく、日本の学者の活躍も紹介しており、児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。(5年下p.87)</p> <p>○子どもたちがいきいきと活動している場面の写真を効果的に用いて活動内容をイメージ化しやすいよう配慮されている。(1年上p.80)</p>	<p>○「算数の目で見よう」では、非連続型テキストを読み取る問題が示されており、生活に役立てることができるよう工夫されている。(5年上p.118)</p> <p>○各都道府県のマークを取り上げ、対称図形について学ぶことを通し、自分たちが住んでいる地域にも目を向けていけるよう配慮されている。(6年p.18～19)</p>	<p>○「算数の目で見よう」では、グラフ等の資料を読み解きながら、児童の活用の力が高まるよう工夫されている。(5年下p.112)</p> <p>○「ほじゅうのもんだい」「おもしろ問題にチャレンジ!」が設けられ、児童が実態に応じて自主的に学習に取り組めるよう工夫されている。(3年下p.117)</p>	<p>○6年「算数卒業旅行」では、数学への移行に抵抗感が生まれないよう配慮されている。</p> <p>○目次に単元の系統、巻末に「ふりかえりコーナー」「さく引」を設け、学習したことを振り返られるよう工夫されている。(1年を除く)</p>	<p>○「こえにだしていおう!!」「かあどをつかって」を設け、数に親しみながら数感覚を養っていけるよう工夫されている。(1年上p.25、44)</p> <p>○「算数をつかってやってみよう」のように、活動を通して算数への理解が深まるよう工夫されている。(3年下p.51)</p>
B	<p>○低学年では半具体物・ドット図・テープ図、中・高学年では線分図・数直線図等を発達段階に応じて、用いることができるように配慮されている。</p> <p>○加法の計算の単元では、被加数を一定にし児童が筋道を立て論理的に考えることができるよう工夫されている。(2年p.22～28)</p>	<p>○図や吹き出しを使ってこれまでの学習や経験を想起させ、学習のレディネスをそろえることで単元の導入時の学習課題にスムーズに取り組むことができるよう工夫されている。(5年p.28)</p> <p>○算数の入門期から、個に合った多様な学びを保証するような構成となっている。(1年p.19)</p>	<p>○3年p.30～31のように遠足などの児童が楽しみな内容を導入に配置し、興味・関心をもって取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○「九九のカードゲーム」では、学んだことを習熟できるよう楽しみながら繰り返し学べるよう工夫されている。(2年p.131)</p>	<p>○立式した後にその理由を書く欄を設け、言葉で説明することで論理的な思考の育成が図られるよう配慮されている。(6年p.45)</p> <p>○6年p.200のように「算数に関する本を読んでみよう」では、算数に関する図書を紹介します、読書の幅を広げるよう工夫されている。</p>	<p>○4年p.86～87のように三角定規などの使い方を絵や写真を提示して説明しており、児童自ら習熟を図ることができるよう配慮されている。</p> <p>○単元末のまとめの練習には、自ら学習内容に立ち戻れるようにフィードバックを示し、自己評価に役立てることができるよう配慮されている。</p>	<p>○巻末には、学習で使える教具が切り抜いて使えるようになっており、算数的活動が授業時間内で効果的にできるよう配慮されている。</p> <p>○全学年共通のキャラクターの吹き出しを通して、児童の思考の手助けとなるよう配慮されている。</p>	<p>○「わくわく算数ミュージアム」等、算数の有用性や面白さを感じられるよう工夫されている。(6年p.179～200)</p> <p>○全学年において学年1冊とすることで、既習事項を振り返りながら新しい課題を解決していく算数的活動が充実するよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

算 数 No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
D	<p>○1年生からきまりを見つける活動を設定し、多様な考え方を身に付けていけるよう工夫されている。(1年p.84～85)</p> <p>○計算の補充問題を数多く設定し、基礎・基本の定着に向けて配慮されている。(3年下p.118～119)</p>	<p>○2年上p.6～7のように「算数でよくつかう考え方」を各学年で示し、数学的な考え方を系統立てて指導できるよう工夫されている。</p> <p>○「単位量あたりの大きさ」の後に「小数のわり算」を単元配当し、1あたりの大きさを求めるという考え方で学習できるよう工夫されている。(5年p.38、79)</p>	<p>○導入課題や活動場面などを大判の写真やイラストを使って提示し、興味・関心をもって単元の学習に入っていけるよう工夫されている。</p> <p>○くり上がりの書き方の例を示し、児童が選択できるよう配慮されている。(2年上p.39)</p>	<p>○5年p.98のように「チャレンジ算数を使おう」を各学年で設定し、式や図を読む力や文章から関係を読み取る力をつけられるよう工夫されている。</p> <p>○5年p.15のように「ノート名人になろう」のページを設け、その学年に応じたノートの書き方を身に付けることができるよう工夫されている。</p>	<p>○3年下p.22～23のように作図や道具の使い方について写真を使って説明しており、児童が自主的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○「サポート」「補充問題」「チャレンジ」の3種類の問題が巻末にあり、個の実態に応じて選択的に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○6年別冊「中学校へのかけ橋」で、数学的な考え方の視点から既習事項を振り返ったり、中学校の内容に体験的にふれたりとできるよう工夫されている。</p> <p>○音楽など他の教科の学習と関連のある教材を提示し、児童の興味・関心を高める工夫がなされている。(5年p.102)</p>	<p>○子ども同士が関わりながら学ぶことができるように工夫された教具や、興味・関心をもって算数的活動に取り組めるような教具が付録になっている。</p> <p>○数の大きさを1円玉の高さで表し、数と量を結びつけながら数量関係を身に付けられるよう工夫されている。(2年下p.40)</p>
F	<p>○4年下p.23のように基本の問題の後にステップアップ算数として一人一人に応じた練習問題が示されている。</p> <p>○単元導入では、既習事項を参考に考えられるように構成されている。</p>	<p>○3年以上は、冒頭で「算数で使いたい考え方」を示し、算数的な考え方を系統立てて身に付けられるよう配慮されている。</p> <p>○小数のかけ算、割り算の演算決定において、数直線やことばの式を提示し、児童が多面的に理解できるよう工夫されている。(5年p.33、57)</p>	<p>○各学年の最初に「算数がすきになるはじめての一步」を設け、児童が興味・関心を持ちながら算数の学習の仕方について確認していけるよう工夫されている。</p> <p>○3年下p.70のように「よくあるまちがい」「身のまわりの算数」等コラムを入れ、算数に対して関心がもてるよう工夫されている。</p>	<p>○どの学年においても、冒頭で具体的な問題を解く過程を通し、学習の進め方について示している。また、その中で、話し合うことを提示しており、言語を活動の充実のための工夫がなされている。</p> <p>○「算数で使いたい考え方」を3年以上の上巻に設け、例を挙げて数学的な考え方がわかるよう工夫されている。</p>	<p>○6年p.31のように「ちからをのぼそう」では、ページに関連して、基礎から発展問題まで対応できるよう工夫されている。</p> <p>○5年p.226のように「広がる算数」を設け、個に応じて発展的な学習ができるよう工夫されている。</p>	<p>○「友だちのノートをみてみよう」を設け、学年に応じたノートの書き方と、教師の適切な評価言が分かるよう工夫されている。(4年上p.35)</p> <p>○6年「数学へのとびら」では、数学へスムーズに移行できるよう配慮されている。(p.188)</p>	<p>○6年p.77～80のように実際の大きさを体感させ量感を育てる工夫がされている。</p> <p>○高学年の巻末には日本の理系の技術力の高さを紹介し、未来の後継者を育てるための配慮がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
K	<p>○2年上p.140のように「算数しりょうしゅう」では、学習したことを発展させ、児童の興味が増すようなトピックを取り上げている。</p> <p>○加法と減法の時間を別々にとるなど、確実に知識を理解し、技能を身に付けられるように時間設定の工夫がみられる。(3年下p.80)</p>	<p>○巻末に切り取り教具や算数資料集が掲載され、児童が操作活動を通して、実感を伴った理解ができるよう配慮されている。</p> <p>○ブロックで数を量として捉え、またテープ図へ発展できるよう工夫されている。さらに、各学年で図のかき方が示され、発達段階に沿って図を使って考える活動に取り組んでいけるよう工夫されている。(2年上p.54)</p>	<p>○5年p.8のように見開きでダイナミックな写真が掲載され、児童の関心・意欲を高めるよう工夫されている。</p> <p>○雲州そろばんの写真を示したり(3年下p.106)、島根県の人口密度に関する問題を掲載したり(5年p.150)して、島根の児童が算数への関心を深めていけるような問題が示されている。</p>	<p>○6年p.188のように「よみとる算数」で文章やグラフ・表などの読解と思考・判断の根拠などを説明する問題を扱い、読解力が養えるよう配慮されている。</p> <p>○学習のめあてが記載されるとともに、振り返りとして感想を書く活動も示されている。感想の例文には、学習のまとめや今後の学習に生かされる考え方の視点が示されている。</p>	<p>○6年p.94～95のように「算数実験室」「算数の自由研究」などが設定され、算数を深く学習していきたい意欲をもった児童の参考となるよう配慮されている。</p> <p>○巻末に「発見！算数島」があり、基礎・基本を確かめる問題や発展的な問題など様々な問題が設定されており、個々の児童の理解に応じた問題が設定されている。</p>	<p>○補足的な内容は巻末にまとめて示されており、児童が授業に集中できるよう配慮されている。</p> <p>○5年p.3のように高学年においては「算数から仕事へ」が設けられており、キャリア教育の視点とともに算数を学ぶ意義を感じ取れるよう配慮されている。</p>	<p>○6年p.4のように「算数でよく使う考え方」で、これまでの学習を「にている」「きまり」「もどる」の視点から振り返り、児童が考えていく手立てを獲得できるよう工夫されている。</p> <p>○2年以上の本編や巻末に「さがしてみよう」が設定され、量感を身に付けながら、進んで算数を生活の中に生かそうとする意欲を高められるよう工夫されている。</p>
L	<p>○1年「いくつといくつ」では、数の分解を1ページごとに示し、1年の児童が数についての理解を深めるための工夫がなされている。(p.29)</p> <p>○AB判紙面の側注に設けた「もう一度考えよう」は、本文の問題や「直後の問題」を補完するような内容になっており、学んだことが定着できるよう配慮されている。(5年下p.63)</p>	<p>○3年下p.25のように「よみとろうあらかわそう」では、絵や図、さらに線分図や数直線を活用して問題解決できるような系統立てて構成されている。</p> <p>○角と角度の単元では、角度を理解するための学習用具が付録として設けられており、全児童で取り組めるよう配慮されている。(4年上p.20)</p>	<p>○単元の導入部分で児童に身近な事柄から課題が示され、興味・関心が高まるよう工夫されている。</p> <p>○「いち・に・算活」では身の回りのものでもかけ算に表せるものを探す学習活動が示されており、児童の意欲を高めながら算数と生活の関連について理解が深まるよう工夫されている。(2年下p.32)</p>	<p>○2年以上各学年の上巻末に「算数で使いたい言葉・考え方」がまとめて示してあり、学年に応じた説明の仕方を身に付けられるよう配慮されている。</p> <p>○問題解決的な学習の手順を4段階に整理して、具体的な着眼点を示すことで見通しを立てたり考えたことを話し合ったりすることができるよう工夫されている。(4年下p.21)</p>	<p>○5年上p.11のようにページの右端に学習の流れや既習事項を振り返ったり、ステップアップ練習へ進んだりできるなどの工夫がされている。</p> <p>○各巻末にある「算数マイトライ」では、児童が主体的に学習を進めていけるよう工夫されている。</p>	<p>○「もうすぐ中学生」を設けて、小学校の学習をふまえた中学校の学習内容について紹介するなど、中学校との連携に配慮している。(6年p.96)</p> <p>○3年下p.12のように「なるほど算数」では算数に関する情報が紹介されており、算数の楽しさを感じとれるようになっている。</p>	<p>○身近な生活や他教科との関連をもたせた場面設定となるよう工夫されている。(3年上p.70)</p> <p>○問題解決のヒントや発展的な問題などをAB判紙面の側注に示すことで、本文中の問題や図、まとめなどが読みやすくなるよう配慮されている。(6年p.58)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

理 科 No. 1

発 行 者 略 称	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○4～6年の学年の初めに、問題解決の過程を示し、見通しをもった学習ができるよう工夫されている。</p> <p>○巻末には、「理科の調べ方を身につけよう」として、ノート書き方や話し合いの仕方、観察や実験器具の使い方、算数学習の活用の仕方などが掲載され、理科に必要な技能を発達段階に即して習得できるよう配慮されている。</p>	<p>○各単元の学習において見通しをもって学習できるよう、「問題をつかもう・問題・予想しよう・計画しよう・観察実験・結果・考えよう・まとめ」という学習の流れが示されている。</p> <p>○6年p.13のように、各単元の初めには「思いつくそう」があり、これまでの学習のとの関連を意識できるような構成になっている。</p>	<p>○3年「チョウを育てよう」では、幼虫の実際の大きさを擦り出しで示したり、成長の様子が順序よく表れるよう大きさを変えたページで示したりすることで、児童の興味を引くよう構成されている。</p> <p>○巻末に3年「こん虫の切り紙をつくる」、6年「とび出る人体模型」があり、児童が制作活動を通して理解を深められるよう工夫されている。</p>	<p>○4年p.58、86、163のように、気温とヘチマの成長を同時に示し、ヘチマと気温の変化を比較し、関連付けて考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○5年p.74～75では、島根県の斐伊川の写真を含め全国各地の川や川原の様子を掲載し、その特徴をまとめられるよう配慮されている。</p>	<p>○4年p.65、5年p.59、60「理科のひろば」では、学習と身近な生活を結び付けたり発展的な学びにつなげたりできるよう配慮されている。</p> <p>○各学年の巻末の「理科の調べ方を身につけよう」の中に「話し合いの仕方」が掲載され、言語活動の充実を図ることができるよう配慮されている。</p>	<p>○「つくってあそぼう」(3年p.128)では、ものづくり活動を1つの学習活動として展開できるように構成されている。</p> <p>○5年「魚のたんじょう」ではメダカの変態の雄と雌、受精直後からのたまごの変化等、特徴がつかみやすい拡大写真が示されている。</p>	<p>○写真、絵、図表、イラスト、吹き出しなどが、効果的に配置され、児童が興味をもって見ることができ、さらに理解が深まるよう配慮されている。</p> <p>○観察・実験後、児童が学習内容を確認できるよう、4年p.120、6年p.96のように問題に対するまとめが箇条書きで示されている。</p>
B	<p>○各学年の初めに、「理科の学び方」として問題解決学習の流れを箇条書きでイラストや図とともに示し、見通しをもって学習できるよう工夫されている。</p> <p>○5年「植物の発芽」(p.20)では、条件制御の考え方を文や表で強調し、各学年で育成する問題解決能力を意識して学習できるよう配慮されている。</p>	<p>○4年「ものの温度と体積」、5年「植物の発芽」「流れる水のはたらき」では、多様な方法から選択して主体的に学習に取り組めるよう、別の(実験)方法が紹介されている。</p> <p>○5年「発芽の条件」(p.19)では、ガラスコップを使った栽培により、発芽の様子がよく分かる実験方法が示してある。</p>	<p>○6年p.18にあるように資料「りかのたまてばこ」では、自然事象や日常生活、研究等が紹介され、児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。</p> <p>○4年p.57では、夏の大三角の写真的前面に星座の絵が描かれた透明シートがあり、児童の興味・関心を高めるとともに星座観察が容易になるよう工夫されている。</p>	<p>○単元の終わりには、「たしかめよう」「学んだことを生かそう」があり、学習内容を振り返り言葉や文で説明したり、活用したりする力を高めるよう配慮されている。</p> <p>○6年「ものの燃え方」(p.26)には、昔ながらの鉄作りである「たたら吹き」が紹介され、その中に安来市の「和鋼博物館」の資料が掲載されている。</p>	<p>○3年p.45、6年p.56にある「ジャンプ」では、発展的な内容が示され、知的好奇心を高めるよう配慮されている。</p> <p>○5年p.66～69のように、各学年で「自由研究」のページがあり、研究の進め方が箇条書きで分かりやすく示され、自主的な発展学習となるよう配慮されている。</p>	<p>○各学年の巻末にある「ふりかえろう」では、上学年や中学校の学習内容が紹介され、系統的に学べるよう配慮されている。</p> <p>○5年p.47～48には、顕微鏡の使い方が折り込みで掲載され、p.75の観察が開いたままできるように工夫されている。</p>	<p>○学校や地域の実態、児童の思いや考えに応じて多様な方法から実験方法等を選ぶことができるなど、主体的な学習が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○6年p.168のように、学習内容を生活と結びつけた資料により、学習したことをもとに自分の生活が振り返られるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
D	<p>○各学年の初めには、「見つけよう・調べよう・まとめよう」という学びの流れを示し、児童が問題解決の過程を理解し、見通しをもって学習が進められるよう配慮されている。</p> <p>○5年p.35にあるように、課題・予想・実験結果・考察・まとめなどを書いたノート例を示し、問題解決の過程が充実するよう工夫されている。</p>	<p>○各学年の巻末には「見つける・伝える・聞く・観察・記録・調べる・まとめ・道具の使い方」がまとめてあり、理科学習の技能が発達段階に即して習得できるよう配慮されている。</p> <p>○4年p.102～104にあるように、課題・実験・結果・考察・まとめの流れや注意が両端に示され、見通しをもって学習に取り組めるよう配慮されている。</p>	<p>○各学年に「科学者の伝記を読もう」が掲載され、実在の科学者を紹介し、自然や科学への興味・関心を高められるよう工夫されている。</p> <p>○6年p.94のように、各単元には「読み物」があり、児童が新たな課題意識をもてるよう、学習内容と身近な生活との関わりやつながりが紹介されている。</p>	<p>○6年「てんびんを作って郵便物の重さを量ってみよう」(p.93)にあるように、ものづくりを通して実感を伴う理解が図られるよう工夫されている。</p> <p>○3年「かげと太陽」(p.23)では、大事な言葉として「科学的な言葉」を示し、「科学的な言葉」を用いて記録ができるよう配慮されている。</p>	<p>○4年p.124のように「活用しよう」「学びを生かそう」では、学習内容を実生活に生かしている内容を示し、発展的な学習へつながるよう工夫されている。</p> <p>○巻末前の「考えよう調べよう」では、「見つける・伝える・聞く・記録・調べる・まとめ」等の方法を示し、主体的な学習を進めることができるよう配慮されている。</p>	<p>○4年p.125「科学者の伝記を読もう」や5年p.159「調べる」では、図書館を活用して学習を進めることができるよう工夫されている。</p> <p>○単元の最初のページに単元で使用する器具や関連する既習事項の掲載があり、見通しをもった学習ができるよう配慮されている。</p>	<p>○巻頭見開きに、美しい自然の写真と自然を題材にした詩が掲載され、児童の自然に対する感性が高まるよう配慮されている。</p> <p>○4年巻末には理科学習で必要となる技能や図書館活用の仕方をまとめ、言語活動の充実を図り、思考力や表現力を高められるよう配慮されている。</p>
F	<p>○4年、5年の初めには、前学年の学習内容を確かめたり、各単元の最初のページでは、他の単元とのつながりをおしえたりすることで、学習内容の系統性が意識できるよう工夫されている。</p> <p>○問題解決の過程が、同一のキャラクターで示され、学習に見通しをもって取り組むことができるよう配慮されている。</p>	<p>○5年p.23のように、各学年で「ノートの使い方」が示され、問題解決の過程を整理する技能が、発達段階に即して習得できるよう工夫されている。</p> <p>○各学年のp.4～5で「学年の学び方」が示してあり、問題づくりからまとめまでの見通しをもって学習できるよう配慮されている。</p>	<p>○6年「人や他の動物の体」(p.42)では、実際の大きさの臓器のイラストを示すなど、児童の興味・関心を高められるよう工夫されている。</p> <p>○各学年の巻末には、「図鑑コーナー」が掲載され、児童が主体的に自然に触れたり、学習を広げ深めたりできるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元末には「学んだことを使おう」があり、学習内容をもとに、自然事象などを説明する活動を通して思考力を高めるよう工夫されている。</p> <p>○5年p.58、176のようにグループで学習したり、3年p.59のように場を共有したりする様子を示し、言語活動を通じた学び合いができるよう配慮している。</p>	<p>○3年p.58のように各単元の中に「チャレンジ」という発展的課題が紹介され、児童の関心を高めるとともに、自主的な学習を促している。</p> <p>○6年p.110～111のように、随所に「資料」が設けられ、学習したことをさらに詳しく学んだり、生活との関連を学んだりできるよう工夫されている。</p>	<p>○4年p.112～115には、理科室での学習の仕方や実験器具の使い方が示してあり、安全意識をもって実験ができるよう配慮されている。</p> <p>○各学年の裏表紙にその学年の学習内容に関わる「理科の安全の手引き」が掲載され、安全面に配慮されている。</p>	<p>○各学年の表紙に自然事象の写真が掲載され、理科学習と実生活とのつながりを意識して学習をスタートできるよう配慮されている。</p> <p>○巻頭・巻末を始め、随所に「達人からのメッセージ」や「自然や生物の美しい写真」が掲載され、児童の感性を高めるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
G	<p>○3年～6年の初めに見開きで1年間の学習が写真とともに掲載され、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○3年「身近なしぜんのかんさつ」(p.30～37)では、動物のすみかや様子を観察し食べ物とのつながりに気付けるよう、写真・吹き出し・観察カード等が効果的に示されている。</p>	<p>○3年、5年の巻頭「学習の準備」では、早期に取りかかる準備内容を示したり、4年p.4～5では、生き物や栽培活動の時期を年間スケジュールで掲載したりして、見通しをもって学習できるよう配慮されている。</p> <p>○3年「身近なしぜんのかんさつ」「植物を育てよう」は、暖かく育てよう、寒冷な地域に配慮した構成となっている。</p>	<p>○3年p.76～77、109～111の「資料」では、学習内容と関連した情報や発展的内容、偉人などを紹介し、児童の興味・関心が高まるよう工夫されている。</p> <p>○6年「月と太陽」(p.76～77)のように、単元の初めには身の回りの自然事象を見開きで紹介し、児童に疑問を抱かせるよう配慮されている。</p>	<p>○6年p.85や5年p.44にあるように、レポートやワークシートの作成例を示し、書く活動を中心に言語活動が充実するよう配慮されている。</p> <p>○5年p.20～22では、「条件制御」を意識して予想や実験・考察ができるよう示し、各学年で培うべき問題解決能力が高まるよう配慮されている。</p>	<p>○「しらべてみよう」(5年p.144)、「やってみよう」(6年p.15)のように、学習内容に関わる発展的内容を紹介し、児童の課題意識を高めるよう配慮されている。</p> <p>○4年p.59にあるように全学年の「やってみよう自由研究」で、研究の具体的な進め方を示し、児童が自主的に研究に取り組めるよう配慮されている。</p>	<p>○4年「生き物のくらし」では、四季それぞれの身近な動植物を多種類取り上げ、写真で示している。</p> <p>○サイズはB5版であり、持ち運びや机上で扱いやすいよう配慮されている。</p>	<p>○自然の美しさを感じられるよう、各学年の表紙と裏表紙に四季の風景写真が掲載され、巻頭には身近な自然、月から見た地球の写真等が掲載されている。</p> <p>○地域の動植物の発育時期や地域素材の活用など、地域の特性を生かした学習ができるよう配慮されている。</p>
K	<p>○4年p.23のように、各単元のまとめのページには、「新しく学習した言葉」があり、言葉の定着が図られるよう工夫されている。</p> <p>○各学年の巻頭には、「学習の進め方」が示してあり、問題解決の過程を理解した上で学習を進められるよう配慮されている。</p>	<p>○4年p.84～85のように、単元の最初には見開きで学習内容に関わる自然事象等の写真と学習のめあてを提示し、見通しをもった学習ができるよう配慮されている。</p> <p>○単元末には、「まとめよう・たしかめよう・力だめし・ひろげよう」が設けてあり、学習内容を確認、学習内容と日常生活の事象をつなげて考えられるよう配慮されている。</p>	<p>○3年p.109のように、各単元末には「ひろげよう」があり、学習内容と関連した情報が紹介され、児童の興味・関心を高めるよう配慮されている。</p> <p>○3年の巻末には、「たんけんカード」、4年の巻末には「光る星座カード」があり、児童が主体的に自然に触れたり、観察したりできるよう工夫されている。</p>	<p>○5年、6年巻末には「地域資料集」があり、身近な自然について調べたり、他の地域と比べている。6年p.205には大田市の三瓶小豆原埋没林が掲載されている。</p> <p>○6年「水よう液の性質」(p.84)の問いのように、各学年における問題解決能力が育つよう問題提示の仕方が工夫されている。</p>	<p>○各単元の学習後の「まとめよう」では、5年p.51のように手書きのシートが紹介され、自学を進めていく上でのポイントが意識できるよう配慮されている。</p> <p>○5年p.40のように、「理科の広場」では、発展的な内容を詳しく解説し、自主的な学習を促すよう配慮されている。</p>	<p>○各学年に「わくわく理科プラス」という学習前と学習後に活用するノートが付属している。</p> <p>○各学年の巻末に「理科につながる算数のまど」のコーナーがあり、算数の学習内容と理科学習とのつながりを意識できるよう配慮されている。</p>	<p>○理科の有用性を実感できるよう、学習内容と日常生活・地域教材を関連づける構成がされている。</p> <p>○教科書に付属している「わくわく理科プラス」をはじめ、巻末の「つくってみよう！(ものづくり広場)」「算数のまど」「地域資料集(5年、6年)」「読んでみよう理科の本」などの資料が充実している。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○上巻「すたあとぶっく」において、生活科におけるスタートカリキュラムで使用できるよう配慮されている。</p> <p>○種子から発芽、花芽分化の様子が一目で分かるよう構成されている。</p>	<p>○上巻「もうすぐ2年生」で新1年生の招待活動と振り返り活動が示され、自分の成長を感じることができるよう工夫されている。</p> <p>○町探検が2回設定されており、活動を繰り返すことにより気付きの質を高め、学習を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○上巻では、同一の公園の夏、秋、冬の場面を取り上げて季節の変化や遊びの違いがわかるよう工夫されている。</p> <p>○下巻「うごくうごくわたしのおもちゃ」では、身近にある材料を使った簡単なおもちゃを紹介したり、単元の終わりには「おもちゃ図かん」を入れたりして児童の製作意欲が高まるよう工夫されている。</p>	<p>○下巻「つたわる広がるわたしの生活」では相手意識をもって伝え方を考えることで、言語活動の充実と人とのつながりを意識できる構成となっている。</p> <p>○クラスの児童の様子を挿絵や写真で紹介する中に、車椅子や外国の児童も登場させ、福祉や人権に関する内容にも配慮されている。</p>	<p>○巻末に「べんりてちょう」を付け、自分で調べたり観察したりできるように、工夫されている。</p> <p>○上巻には付録として「ポケットずかん」が付いており、季節ごとに身近な草花や虫を探ることに役立つよう工夫されている。</p>	<p>○学習した内容についてクイズページを設け、興味をもたせながら理解を深まるよう工夫されている。</p> <p>○上巻の「ほんとうのおおきさずかん」では、実物大の図により植物の種類を判別しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○活動名の下に課題が示され、児童の意識に沿った学習が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○上巻下巻とも一年間が四季ごとに色分けされ、学習する単元がわかりやすく示されている。</p>
B	<p>○上巻「みんななかよし」は、家庭から小学校へ登校する様子が描かれており、小学生生活をスタートさせる1年生の意識に沿った構成となっている。</p> <p>○上巻下巻とも単元のとびらのページは、2ページにわたる大きな写真によって単元の内容が表されている。</p>	<p>○上巻「あったかいね、ともだちだね」では、植物だけでなく身近な動物についても取りあげ、児童が親しみをもつよう配慮されている。</p> <p>○下巻p.13では、「ビンゴカード」を取り入れゲームをしながら春を見つける探検ができるよう工夫されている。</p>	<p>○上巻「いきものとなかよし」では、葉が印刷されたアクリルシートを使いながら隠れている虫たちを探することで、興味をもって学習を進めることができるよう工夫されている。</p> <p>○下巻p.30「生きものはっけん」では、紙面を縦に使い水の中の生き物がより大きく見える工夫をすることで、学習内容に興味をもてるよう工夫されている。</p>	<p>○上巻「かぞくでいっしょにおしょうがつ」では、家族の一員として何ができるか考えられるよう工夫されている。</p> <p>○下巻「自分はっけん」では自分の良いところに気付き、自尊心が高まるよう配慮されている。</p>	<p>○巻末に「がくしゅうどうぐばこ」として、道具の使い方や簡単な調理、栽培の仕方、電車の乗り方等がまとめられており、実生活の中で生かされるよう工夫されている。</p> <p>○「せいかつことば」の欄があり、語彙が増やせるよう工夫されている。</p>	<p>○下巻「わたしの町はっけん」では、見つけたことを絵地図で紹介するなど社会科への接続に配慮されている。</p> <p>○下巻p.48「夜の長さってどのくらいかな？」では、時間の感覚を視覚的に理解できるよう工夫されている。</p>	<p>○ページの右上に児童の言葉で単元の課題が示されており、児童の意識に沿った学習が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○上巻p.68には白黒写真を用い、児童が自ら秋の色を想像できるように工夫されている。</p> <p>また、特大写真を用いて興味深く学習を進めたいけるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
D	<p>○4人のキャラクターが学校や町を探検したり、生き物を育てたりする設定になっており、児童が親しみをもてるよう工夫されている。</p> <p>○児童のそれぞれの活動における表現活動が分かりやすく掲載されている。</p>	<p>○「町のきせつ図かん」では、風景だけでなく各地の様子と祭り等の写真を掲載することで、学習内容を広げる工夫がされている。</p> <p>○下巻p.70～73ではだんごむしの成長を細かく写真で紹介しており、気付きのきっかけが得られるよう工夫されている。</p>	<p>○巻頭には見開きの大きなページを設け、上巻は1日の様子をすごろく風に、下巻は町の様子をクイズ形式で示し、興味をもつよう工夫されている。</p> <p>○「野さい図かん」では、たくさんの野菜の栽培方法を掲載することで、栽培活動に意欲をもつことができるよう配慮されている。</p>	<p>○下巻「もっと知りたいいしらべたい。」では、町探検1と2で活動する学習スタイルが示され、気付きの質を高められるよう工夫されている。</p> <p>○下巻「みんなのすてきはっ見」「みんなみんなありがとう」や下巻「町のくふう」の活動により、自尊感情を育てることや福祉との関連に配慮されている。</p>	<p>○上巻「あそびにいこうよ」の中の「ものしりノート」で紹介される遊びは、児童が自主的に取り組める内容が集められている。</p> <p>○下巻p.28「チャレンジ図かん」では、さらに調べたい見つけたいという思いを紹介し、発展的に取り組めるよう工夫されている。</p>	<p>○単元の終末には発展学習が取り上げられ、児童の自主的な活動につながるよう工夫されている。</p> <p>○「学び方図ずかん」では児童の活動に生かせる内容が掲載され、できるところにチェックができるよう工夫されている。</p>	<p>○「生活科学び方図かん」で、学ぶ力が付けられるように話す、聞く、見る、書くをはじめ安全に関することや道具の使い方等について示されている。</p> <p>○各ページのタイトルが児童の言葉で示されており、活動に親しみをもたせるようになっている。</p>
F	<p>○上巻の「わくわくどきどきしょうがっこう」では小学校生活がイメージしやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○上巻p.23「みんなであつたえあおう」等のページには、巻末資料や他教科との関連を示すマークがあり、学習を広げたり、支えたりすることができるよう工夫されている。</p>	<p>○上巻「かぞくにここ大きくせん」では、家族の一員として自分ができることに挑戦したいという意欲を高められるよう配慮されている。</p> <p>○下巻p.16とp.50に町たんけんの単元が2回設定されており、活動を繰り返すことにより気付きの質を高め、学習を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○上巻p.45では児童が興味をもてるよう、「ランチキュラー板」を使い、朝顔の発芽を体を使って表現する活動が紹介されている。</p> <p>○下巻p.14、p.46のように、野菜や生き物のクイズを載せることで、児童が興味をもつて調べる活動ができるよう工夫されている。</p>	<p>○下巻p.62には、学習したことをさまざまな方法で発表している場面が紹介されており、言語活動が充実するよう工夫されている。</p> <p>○下巻p.50「えがおのひみつたんけんたい」では、仕事についてのインタビュー活動の例が示されており、キャリア教育にもつながる内容となっている。</p>	<p>○巻末に「ぐんぐんポケット」として、「話し方」「聞き方」「安全」等のまとめが実生活で生かされるよう工夫されていたり、「本を読もう」では、関連図書を紹介し読書や調べ学習につなげたりするよう配慮されている。</p> <p>○「おうちでちゃれんじ」コーナーにより学習したことを家庭へ広げられるよう配慮されている。</p>	<p>○巻末の生活ノートは1年間を振り返る時に直接書き込むことができるよう工夫されている。</p> <p>○ページの右上の「はっ見ヒント」や注意事項の記載、振り返りコーナーにより、児童が主体的な学びになるよう工夫されている。</p>	<p>○各単元や「ぐんぐんポケット」3、4、5のように、児童の表現力を養うことを重視した構成となっている。</p> <p>○上巻p.44やp.65では、生き物を育てながら生き物の気持ちになって考えることで思いやりの気持ちができるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
G	<p>○上巻「みんなともだち」は「学校の生活」や「友だち」「安全」等についての紹介があり、入学したての児童が小学校での生活についてイメージできるよう工夫されている。</p> <p>○上巻・下巻を通して、地域の自然を大切にしていこうとする気持ちを育むよう配慮され、季節にそった構成となっている。</p>	<p>○上巻p.68のように、うさぎの家を板とくぎを使って作成するなど友達や地域の人と協力して行う活動例が紹介されている。</p> <p>○下巻の大豆の栽培では、大豆を題材として、栽培体験や人とのコミュニケーション等総合的に学習できるように配慮されている。</p>	<p>○上巻「はしれはしれ」では、風や磁石の力等で動く車づくりを遊び場とともに紹介し、児童の興味・関心を高められるよう工夫されている。</p> <p>○下巻「すすめすいすい号」では、児童が乗って遊ぶことのできる大型の船づくりを紹介し、共同製作や遊びへの興味・関心が高められるよう工夫されている。</p>	<p>○1年間の行事を取り上げるなど、地域や地域の人との関わりを大切にした観点で構成されている。</p> <p>○作文や詩を取り上げるなど、言語活動を重視するとともに、書くことによって気付きの質を高めるよう配慮されている。</p>	<p>○上巻には「たんごのせつく」「たなばた」をはじめ日本の伝統的な行事を取り上げ、家庭でも季節を感じながら生活を豊かにしていることができるように配慮されている。</p> <p>○下巻「わたしとかぞく」では、家庭においても児童ができることを具体的に取り上げ、実践の意欲を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○下巻の町探検では、地域に伝わる民話や福祉について調べたりお年寄りとの交流をしたりすることで住む町のよさを感じることができるよう工夫されている。</p> <p>○単元の導入に季節の様子が表れている詩が紹介されており、豊かな心を育めるよう配慮されている。</p>	<p>○それぞれの活動の中で手紙の交流や対話によって人との関わり方を学んでいく構成となっており、家庭や地域での活動に広がっていくよう配慮されている。</p> <p>○地域に根ざした教材と直接体験を重視した活動が工夫されている。</p>
I	<p>○上巻「なかよしっばいだいさくせん」では、学校探検に併せてあいさつの仕方や安全な登下校の仕方等、学校生活で大切にしたいことをスムーズに学ぶことができるよう工夫されている。</p> <p>○上巻p.48～49では、体全体で春を感じるような活動例が示されている。</p>	<p>○下巻「うごくおもちゃにちょうせんだ」では、作る過程における試行錯誤の場面を取り上げ、主体的に考えることの大切さが伝わるよう工夫されている。</p> <p>○上巻「みんなであそぼうはるなつあきふゆ」では、季節を感じながら草原や公園、砂場で遊ぶ様子を具体的に示し、活動しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○上巻「きせつのおくりもの」では、同じ公園の様子が季節ごとに描かれ、季節の変化に気づけるよう工夫されている。</p> <p>○上巻「あそんでためしてくふうして」では、児童の興味・関心を高めるような写真が掲載されている。</p>	<p>○上巻「みんなのこりにこだいさくせん」では、よりよい「ふるまひ」について考えさせる展開となっている。</p> <p>○下巻では地域の人とかかわりながら住んでいる町について調べたり、野菜を育てたりする構成となっており、地域の人材を生かすよう工夫されている。</p>	<p>○「もっとやってみよう」のコーナーを発展学習のヒントとして示し、上巻p.42では、春の花の栽培時に秋植える植物を紹介して秋への見通しをもたせている。</p> <p>○下巻p.54～55では、生き物の飼い方の図が示され、実際に飼おうときの参考となるよう配慮されている。</p>	<p>○下巻p.21では、見つけたことを絵地図で紹介するなど社会科への接続が配慮されている。</p> <p>○上巻p.18「どうすれば～かな」というコーナーでは、児童の考えるヒントが示されている。</p>	<p>○ホップ、ステップ、ジャンプ等の印により、単元の導入から終末までの学習が見通せるよう構成されている。</p> <p>○単元終わりの「ジャンプ」では、気付きを絵と文で表して友だちと伝え合うよう構成されており、気付きの質を高めるための言語活動が位置づけられている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
K	<p>○上巻「ひろがれえがお」では、家の人の笑顔を見つれたり、どうしたら喜んでもらえるか考えながら実践したりすることで、家族への思いと家族の一員としての自分の役割を考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○下巻p. 38ではゴムや空き缶などの特性を紹介してあり、おもちゃづくりのヒントとなるよう配慮されている。</p>	<p>○単元は時系列で構成されており、季節に合った活動や夏休みの過ごし方を事前に学習できるように配慮されている。</p> <p>○下巻p. 20とp. 62に町探検が2回設定されており、活動を繰り返すことにより気付きの質を高め、学習を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○上巻「がっこうたんけん」の見開きページや他のわくわくページの拡大写真など、興味をもって学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○下巻p. 46、74の「季節とびら」では季節の風物詩を取り上げるなど写真が効果的に使われており、興味をもって学習に取り組めるように工夫されている。</p>	<p>○「つたえあおう」のコーナーでは、発表の仕方やまとめ方が分かりやすく示してあり、言語活動を充実させることができるよう工夫されている。</p> <p>○挿絵には、様々な世代の人や障がいのある人が描かれており、福祉との関連が配慮がされている。</p>	<p>○上巻「わくわくずかかん」下巻「いきいきずかん」では、あいさつの仕方や道具の使い方、調べ方についてのまとめがあり、実生活や学習に生かせるよう工夫されている。</p> <p>○別冊「せいかつたんけんブック」は、動植物の図鑑として活用しながら活動を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○教科書に直接記入する欄を設け、学習の記録をすることができるよう工夫されている。</p> <p>○「ありがとう」のページが設けられ、道徳教育との関連が図られている。</p>	<p>○各ページの左上に「わくわく」「いきいき」「つたえあおう」「ちゃれんじ」の表示があり、活動の見通しがもてるよう配慮されている。</p> <p>○やさしい色合いの絵と人物の表情がよくわかる大きくて効果的な写真により、児童が親しめるよう配慮されている。</p>
L	<p>○幼児教育から小学校への円滑な接続に配慮されたスタートカリキュラムの内容として、7つの項目に整理して示されている。</p> <p>○上巻p. 100「きせつのちがいをさがしてみよう」では春夏秋冬の絵を見開きで示し、季節の違いがとらえられるよう工夫されている。</p>	<p>○下巻p. 98では、自分や友達のいいところを探す活動を取り入れ人とのつながりを意識できる構成となっている。</p> <p>○上巻は、四季の変化を中心テーマとして、様々な活動が展開されるよう工夫されている。</p>	<p>○単元のとびらは、興味をひく絵が見開きで描かれており、学習に意欲的に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○下巻p. 24では、野菜を育てる過程が写真でいねいに示されており興味・関心を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○下巻p. 96「将来へのとびら」、p. 112「これからわたしは…」では、キャリア教育との関連が図られている。</p> <p>○下巻p. 46「大切に育てるよ」では、生命尊重を踏まえ、道徳教育との関連にも配慮されている。</p>	<p>○上巻「夏休みがやってくる」下巻「夏休みにしたいことは…」では、計画や記録の仕方を紹介し自学自習に生かせるよう工夫されている。</p> <p>○「なんでもずかかん」では植物図鑑のほか安全教室や調べたことのまとめ方や、話し方伝え方も紹介され、子どもの興味に応じて発展的に活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○表紙裏、下巻p. 132には点字を載せ、福祉の視点を取り入れている。</p> <p>○上巻p. 32、50、下巻p. 38、82など、学習したことを追究したり実生活に生かしたりできるよう工夫されている。</p>	<p>○活動ごとに課題が示されており、児童が見通しをもって学習することができるよう工夫されている。</p> <p>○表紙、裏表紙につながる絵は親しみやすく、生活科の学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
F	<p>○1年の児童が、意欲的に学習に取り組めるよう、身体表現ができる教材が多く取り入れられている。(1年p.8～9)</p> <p>○4年以上の「スキルアップ」のページでは各学年の発達段階に合わせた発声練習やリズムの復習、リズムアンサンブルに活用できる楽曲が載っており、学年を通して活用できるよう工夫されている。(4～6年p.6～7)</p>	<p>○各学年とも題材で学習する共通事項が「音楽のもと」として記載されており、学習内容がわかりやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○教材として採用されている楽曲が、人気映画のテーマ曲や世界の民謡など幅広いジャンルのの中から選択されている。</p>	<p>○3年以上の歌唱教材では折り込みページを効果的に使って日本の情景の美しさが写真で紹介されており、児童が興味をもって歌えるよう工夫されている。</p> <p>○1年の鍵盤ハーモニカの導入では、原寸大の楽器の写真が見開きで示され、息の出し方も具体的に説明されており、意欲をもって取り組むことができるよう工夫されている。(1年p.32～37)</p>	<p>○「音楽ランド」には同じ教材で学年に応じた合唱奏の楽譜が掲載されており、全校で共通して取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○4年「日本のお祭りをたずねて」では石見神楽、5年「日本の民をたずねて」では安来節が取り上げられている。</p>	<p>○巻末に「音楽のもと」のまとめが記載されており、児童にも分かりやすい言葉や図で身に付けたい力がまとめられている。</p> <p>○巻末には「にっぽんのうたみんなのうた」が記載され文部省唱歌以外にも歌い継いでいきたい日本の歌が取り上げられている。</p>	<p>○国歌「君が代」については、学年の実態を考慮した歌詞の大意が記載されており、細石についても写真付で分かりやすく説明されている。</p> <p>○1～3年では透明シートを活用し、楽しく聴いたり歌ったりする活動ができるよう工夫されている。</p>	<p>○明るく楽しい雰囲気 の挿絵や写真、キャラクター、折り込みページや見開きページ等をふんだんに使って、楽しく学習できるよう工夫されている。</p> <p>○「にっぽんのうたみんなのうた」では感性にうったえる、美しい写真や資料が多く用いられている。</p>
H	<p>○1年の児童が、意欲的に学習に取り組めるよう、幼児期によく歌われる曲をたくさん取り上げている。(1年p.4～5)</p> <p>○3年のリコーダーの導入では、演奏時の姿勢やタンギング、息の強さ、穴のとじ方などを写真や図を用いてわかりやすく示されている。</p>	<p>○和音や旋律など音楽的特徴づけている要素が題材として系統的・段階的に取り上げられ、繰り返して学習ができるよう配慮されている。(5年p.22、6年p.22)</p> <p>○題材名が文章で示されるとともに、最初のページ左側に見出しで標記されており、児童が学習の内容や流れをつかみやすいよう工夫されている。</p>	<p>○共通教材を「こころのうた」と位置付け、我が国の自然や文化、日本語のもつ美しさを味わう視点から曲について説明されている。</p> <p>○3～6年巻末の「音楽の歴史をつくった人」というコーナーには、世界的に有名な作曲家についての記載があり、児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。</p>	<p>○アンサンブル活動が全学年を通して取り上げられ、友達と合わせて演奏することの楽しさを味わい、気持ちを合わせて演奏する意欲を育てるよう工夫されている。(4年p.42)</p> <p>○3年「郷土の音楽」では石見神楽、4年「郷土の民謡」では安来節が取り上げられている。</p>	<p>○巻末には「ふりかえりのページ」が設けられ、共通事項や音楽の仕組みについてまとめであり、学んだ内容を確認することができるよう工夫されている。(各学年p.72)</p> <p>○「みんなで楽しく」のページでは歌唱曲や合奏曲の楽譜があり、学習した内容をさらに発展させ、様々な楽曲に取り組むことができるよう工夫されている。</p>	<p>○「日本と世界の音楽に親しもう」では我が国の音楽文化に愛着をもち、他国の音楽文化を尊重する態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>○題材では共通事項を中心に表現・鑑賞・音楽づくりの教材が関連をもって取り上げられている。(4年p.36～43)</p>	<p>○題材ごとに、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の学習を関連づけて教材が選択されており、学校や児童の実態に応じて学習をすすめていくことができるよう配慮されている。</p> <p>○感じ取ったことを言葉で説明したり、表現を工夫したりするための手掛かりとして、絵譜やキャラクターからのアドバイス、コラムが示されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
C	<p>○各領域とも発達の段階に応じた適切な内容・程度で、相互鑑賞の場面や共同的な活動を設定した題材がバランスよく精選されている。</p> <p>○多くの題材が掲載され、領域によっては選択題材が設定されており、地域や学校、児童の実態に合わせて内容が選択できるよう工夫されている。</p>	<p>○描いたり作ったりする活動を通して、育てたい力を3点にまとめ、題材名と共に示されている。</p> <p>○題材のねらいや観点別に示した振り返りの視点が分かりやすく示されている。</p>	<p>○3・4年上p. 34のように、初めて取り扱う用具のある題材では、扱い方が分かるよう配慮されている。</p> <p>○扉絵は、「小さな美術館」とアーティストの作品や活動を紹介して、造形活動への関心・意欲が高められるよう工夫されている。</p>	<p>○「造形コレクション」として、玩具や自然を取り上げ、「共通事項」の視点で生活の中の造形美を見出すことができるよう工夫されている。(1・2年上p. 43ほか)</p> <p>○題材で扱った材料・用具と郷土の伝統文化、他教科との関連が図れるよう工夫されている。(1・2年下p. 29、3・4年上p. 39)</p>	<p>○1・2年上p. 40～41のように「みんなのギャラリー」が各学年掲載され、様々な場面で美を楽しむことに目が向けられるよう工夫されている。</p> <p>○3・4年上p. 18のように「ひらめきコーナー」で、簡単に出来る工作を紹介し、授業以外でもつくる活動に取り組みめるよう配慮されている。</p>	<p>○もくじには題材名と共に使用する材料・用具が一覧として示されている。</p> <p>○材料用具の扱い方だけでなく、アレルギーや衛生面に配慮されている。</p>	<p>○ねらい、観点、振り返りと題材の流れが見開きで示されている。導入の言葉も併せて示されており、題材に向かう意欲が喚起されるよう工夫されている。</p> <p>○子どもたちの鑑賞風景や他者へプレゼントする題材など、コミュニケーションや言語活動を重視した題材を取り入れている。</p>
L	<p>○発達の段階を踏まえて取り扱う材料や用具が設定されており、各領域とも内容や程度など教材がバランスよく精選され、表現と鑑賞が一体的に学習できるよう配慮されている。</p> <p>○低学年では、体全体で材料と関わる題材が多く配列してある。</p>	<p>○1つの題材について屋外、屋内の両方での学習活動が掲載されており、児童や学校の実態に応じて選択できるよう工夫されている。</p> <p>○各題材の紙面には、活動内容、学習のめあて(4つの観点)、発想や表現の手だてとなるヒントやポイントが示されている。</p>	<p>○作品と共に活動のプロセスやアイデアスケッチなどが適宜示してあることで、児童が見通しをもって取り組むことができるよう工夫されている。(1・2年上p. 24)</p> <p>○各学年の巻頭に、児童の造形活動の様子が掲載されており、1年間の学習への見通しと学習意欲がもてるよう工夫されている。</p>	<p>○3・4年上p. 50～51のように世界遺産や伝統的な文化遺産、郷土の民芸品などを取り上げ、伝統技法を使った題材で活動できるよう工夫されている。</p> <p>○3・4年から、作品と共に児童の感想を取り上げ、文章から他者の思いを感じ取ることができるよう工夫されている。(上p. 11)</p>	<p>○5・6年上p. 28～31のように「図画工作の広がり」では、作品の発表場面や地域との交流の取り扱いがあり、展示をする際の工夫としても活用できる。</p> <p>○「ぞうけいのもり」では、生活と色や形を結び付けて考えることができるような発展的な題材が示されている。</p>	<p>○中学校美術の活動を紹介し、教科のつながりを意識できるよう工夫されている。(5・6年下p. 48～49)</p> <p>○3・4年下p. 54のように危険を伴う用具の取扱いについて写真や絵を用いて示し、安全に活動できるよう配慮されている。</p>	<p>○題材の初めに、ねらい、観点、振り返りと題材の流れが見開きで示され、主に大切にしたい観点到に下線が引いてある。</p> <p>○多くの作品と共に視線や手の動きを中心にした写真が多く用いられており、児童が題材に向かいやすいよう配慮されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

家 庭 No.1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○段階標本の写真により、調理結果を予測したうえで判断できるよう工夫されている。(p. 16、69)</p> <p>○「いつもたしかめよう」に基礎的・基本的な技能が集約され、必要に応じて活用できるよう工夫されている。(p. 114～124)</p>	<p>○小題材は、「学習のめあて」とそれに即した「ふり返ろう」が設けられ、スモールステップを踏みながら学習を積み上げていけるよう工夫されている。</p> <p>○各題材に「これだけではできるようになるう」を設け、基礎的・基本的な技能を確認しながら学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○生活場面の見開きのイラスト・写真により、身近な生活の実態から自分なりに課題をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 36～37、44～45)</p> <p>○子どものキャラクターが随所に登場し、吹き出して思考を促す疑問や話し合いの例を示すことで、主体的に学ぶ意欲がわくよう工夫されている。(p. 49、70)</p>	<p>○学習のまとめ方として、パンフレット作成例、レポート作成例、話し合い活動例が紹介され、言語活動の充実が図れるよう工夫されている。(p. 43、51、70～71)</p> <p>○内容を総合的に扱う題材が設けられ、家庭生活の営みの関連性を捉えて学習が進められるよう工夫されている。(p. 92～101)</p>	<p>○「自由研究」で、実践の進め方から結果のまとめ方まで例示があり、一連の学習過程を見通すことができ、家庭で実践しやすいよう工夫されている。(p. 25、81)</p> <p>○「プロに聞く！」が随所に設けられ、学習内容と社会生活とのつながりに気付いたり、学習を深められたりできるよう工夫されている。(p. 29、107)</p>	<p>○調理・製作に必要な用具を左手で扱っている写真があり、左利きの児童に配慮されている。(p. 33、115～121)</p> <p>○実物大の写真を用いて、切る際の手指の使い方や力を入れている部分が細部まで確認しやすいよう工夫されている。(p. 115～121)</p>	<p>○基礎的・基本的な内容を押さえながら、身近な生活を出発点に主体的に問題解決的な学習が展開できるよう工夫されている。</p> <p>○題材は、「見つめよう」「計画しよう・活動しよう」「生活に生かそう・課題を見つけよう」の3部で構成され、学習の見通しがもてるよう工夫されている。</p>
C	<p>○実習・製作する小題材が細分化して配列され、スモールステップを踏みながら基礎・基本の定着が図れるよう工夫されている。</p> <p>○調理手順が写真で示され、状態(沸騰や卵の加熱等)を確認しながら調理が再現できるよう工夫されている。(p. 16～17、72～73)</p>	<p>○題材は、「学習のめあて」で始まり、「話し合おう」「やってみよう」等を経て、「ふり返ろう」で題材全体の学習を振り返って自己評価できるよう工夫されている。</p> <p>○各題材の終わりに「生かそう」が設けられ、家庭での実践を促す提案が示されている。(p. 29、85)</p>	<p>○「ひとロメモ」に学習内容に関連する言葉の解説があり、興味・関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 15、48)</p> <p>○豊富な製作例・調理例が写真で示され、学習意欲や家庭での実践意欲を喚起するよう工夫されている。(p. 12～17、21～24)</p>	<p>○地産地消という言葉やしじみ汁(島根県)を紹介し、地域に伝わる食材や調理例を調べることができるよう工夫されている。(p. 15、51、63)</p> <p>○巻末の「家庭科学習でよく使われる用語」が内容別に集約・分類され、レポート作成や話し合い活動等で活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○「チャレンジコーナー」が随所に設けられ、学んだことを生かす複数の例示が写真付きで紹介され、家庭での実践を促す具体例を数多く示すことで、児童が家庭の状況に応じて実践できるよう工夫されている。</p> <p>○中学校技術・家庭科で学習する内容を紹介し、発展的な学習や中学校への接続に配慮されている。(p. 100～102)</p>	<p>○食物アレルギーについて触れてあり、食の安全への視点が示されている。(p. 10、12、71)</p> <p>○実習・製作中の安全への注意喚起が折り込みページにまとめられており、常に開いたまま確認できるよう工夫されている。</p>	<p>○基礎的・基本的な内容を押さえ、豊富な情報や例示により、学習内容を活用したり、実践したりできるよう工夫されている。</p> <p>○題材は、「学習のめあて」と「振り返り」が設けられ、学習の見通しがもてるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
A	<p>○保健学習の入門期として「自分の夢」を問うことで、健康の大きさを意識づけるよう工夫されている。 (3・4年口絵3)</p> <p>○全体的に写真やイラストなどバランスよく配置されており、図表も分かりやすい構成となっている。</p>	<p>○「大きくなってきたわたし」では、赤ちゃんの頃のくつや手の大きさを現在の自分と比較する体験を通し成長を実感できるよう工夫されている。(3・4年 p.16)</p> <p>○「健康な生活」では自分と環境の要因を自分の経験と関連させながら、話し合いと活動を通して理解できるよう工夫されている。(3・4年 p.4)</p>	<p>○キャラクターが学習のナビゲーター役として登場し、興味・関心をもって学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○「まめちしき」では詳しい学習内容を知ることができ、児童の興味・関心が高められるよう工夫されている。</p>	<p>○「けんこうによいかんきょう」では、既習事項をもとに実際の生活場面でどうすればよいかを問い、思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。(3・4年 p.11)</p> <p>○5・6年「感染症の予防」の学習では、嘔吐物の処理方法が具体的に示されており、感染病防止の意識が高められるよう工夫されている。(5・6年 p.35)</p>	<p>○「つなげよう」のコーナーにより他教科との関連を明記し、横断的な学びができるよう配慮されている。</p> <p>○「広げよう」では、安全マップを大きく取り上げ、作成の目的や視点、注意点が明示されており、身の回りの安全意識を高めるとともに既習事項を発展的に深められるよう工夫されている。(5・6年 p.27)</p>	<p>○教科書の目次に4年間の学習項目が全て示されており、見直しをもって保健学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>○学習内容に関連したホームページアドレスを紹介し、学んだことを発展的に深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各章の終わりに、「学習を振り返ろう」のページがあり、学びを確かめ、生活に生かせるよう工夫されている。</p> <p>○学習内容に応じて「書き込み欄」が効果的に配置され、思考力・判断力・表現力を育てるとともに学習したことを日常生活に実践的に生かせるよう工夫されている。</p>
B	<p>○「イラスト比較」や「生活の振り返り」を大切に学習の流れが、学習を身近に捉え、進められるよう工夫されている。</p> <p>○「やってみよう」「話し合ってみよう」の学習活動が多く、児童の生活体験を基盤に学習が深められるように工夫されている。</p>	<p>○3・4年「育ちゆく体とわたし」では、テープを切って貼る作業を通して身長伸びを捉えたりシールを使って朝食の献立を表したりするなど、具体的に理解できるよう工夫されている。(p.18、27 シール)</p> <p>○5・6年「心と体のつながり」では、慣用句を紹介することで、心と体がつながっていることについて理解が深められるよう工夫されている。(p.7)</p>	<p>○章の導入で「学習ゲーム」を取り入れ、楽しみながら学習への課題意識がもてるように工夫されている。</p> <p>○3・4年「育ちゆく体とわたし」の学習では、シールを用いた活動があり楽しみながら学習が進められるよう工夫されている。(p.18、26)</p>	<p>○5・6年「不安や悩みの解消法」として、「体ほぐしの運動」の活用を紹介することで、運動との関連を図れるよう工夫されている。(p.11)</p> <p>○5・6年「たばこや飲酒の害」の学習では、児童の興味・関心の実態を考え低年齢における害や陥りやすい状況等のデータが示されている。(p.41、43)</p>	<p>○「もっと知りたい」コーナーでは、生活で活用できることや発展的な事柄を示している。</p> <p>○5・6年「不安や悩みの対応」について、具体例が示されている。(p.10～13)</p>	<p>○中学年の表紙は、「給食」で食育との関連を、高学年では「運動」との関係を意識づけている。</p> <p>○数多くのキャラクターが説明や問題提起などの役割をもち、効果的な学習の道筋が示されている。</p>	<p>○「イラスト比較」や生活体験を大切に学習により、楽しみながら主体的に学ぶことができるよう工夫されている。</p> <p>○「やってみよう」「話し合ってみよう」など、学習を身近なものであるという意識をもたせている。また、「話し合ってみよう」の学習活動を重視することで、コミュニケーション力を高められるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
M	<p>○児童の生活や体験を生かした学習により、探究心をもって学習を進める流れが工夫されている</p> <p>○大切な学習事項は、大きな文字で簡潔にまとめられ、バックの色付けを工夫してとらえやすくなるよう配慮されている。</p>	<p>○5・6年「病気予防」では、ウェビング法を用いて導入し、学習課題を児童から効果的に引き出し見通しを持った学習になるように工夫されている。(p.24)</p> <p>○5・6年「病気や虫歯予防」(p.34)のように、学習内容を簡潔にまとめた図で表し、原因と現象を関係づけて理解できるよう工夫されている。</p>	<p>○アスリートからのメッセージで、健康の大切さに気付かせるよう工夫されている。</p> <p>○キャラクターからの豆知識やメッセージにより、興味深く学習できるよう工夫されている。</p>	<p>○3・4年「体のよりよい発育」では、生活習慣の大切さを「体力向上」(体力テスト結果)と関係させて学習を進める工夫がされている。(p.24)</p> <p>○地域事故の実態から、水の事故を重点的に取り上げるとともに、着衣泳を紹介することで自分の命を守る意識をもたせる工夫がされている。(5・6年p.20)</p>	<p>○発展コーナーでは、「熱中症」「食中毒」「教えて保健の先生」「新型インフルエンザ」等、児童の生活と深く関わる事項を取り上げている。</p> <p>○3・4年「体の発育」では、給食や郷土料理を取り上げ、食育との関連を図る工夫がされている。(p.23)</p>	<p>○情報コーナーが単元と関連付けて配置されている。</p> <p>○中学年の教科書の最後に、心と体をつなぐメッセージである詩が示されている。</p>	<p>○学習場面に適したキャラクターが登場し、効果的に学習のポイントやアドバイスをすることで、楽しみながら学習が進むように工夫されている。</p> <p>○児童の生活経験や学習内容との関係を考慮し、「考えてみよう」「調べてみよう」「話してみよう」「やってみよう」の4つの学習活動が効果的に配置されている。</p>
N	<p>○3・4年p.11のように、基本的な学習内容が簡潔にまとめている</p> <p>「つかむ」コーナーが設けてあり、理解をたすける工夫がなされている。</p> <p>○学んだことをもとにして考えるコーナーがあり、習得したことを活用するよう工夫されている。</p>	<p>○5・6年「犯罪被害」や「地震や津波」では、実生活の様々な場面で適切な行動がとれるように思考・判断面を重視する工夫がされている。(p.21～22, 27)</p> <p>○3・4年「体の発育」では、食事・運動・すいみに焦点を当てた学習展開がなされ、その重要性が理解できるように工夫されている。(p.26～28)</p>	<p>○色鮮やかな写真等で見やすく楽しみながら学習できるように工夫されている。</p> <p>○「知っておくためになる内容」を載せることで、興味をもって学習が進められるよう工夫されている。</p>	<p>○犯罪被害としてネット被害を取り上げ、注意を喚起するとともに、ネットトラブルに対応する手段について紹介している。</p> <p>○「食育マーク」を明示し、食育に関する学習内容が分かるよう工夫されている。</p>	<p>○「見つけよう」「あてはめよう」の欄が設定され、学んだ事を生かす場面を生かせるよう工夫されている。</p> <p>○5・6年「心の健康」の学習では、中学校の学習内容と関連づけて、適度なストレスについて紹介されている。</p>	<p>○1時間の学習内容を明確にし、授業の充実が図られるように工夫されている。</p> <p>○基本的な内容をしっかり学ぶ「習得」と学んだことをもとにして考える「活用」を明示し、興味をもって学習が進められるよう工夫されている。</p>	<p>○イラストが豊富で楽しく学習を進められ、学習内容のまとまりを枠組みで整理して示している。</p> <p>○「危険から身を守る」の学習内容は、生活の様々な場面での確かな行動ができるように工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

保 健 No.3

記号	選 定 に 必 要 な 資 料 の 観 点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2 教材の選択や構成等	3 興味・関心への配慮等	4 教科の特性、県の実態や課題への適合等	5 発展的学習、自学自習についての工夫	6 その他	
○	<p>○「ここで学ぶこと」では、学習の見通しをもって学習できるよう工夫されている。</p> <p>○5・6年「心の発達」の学習では、思春期の悩みとその対策が具体的に書かれている。(p.32)</p>	<p>○興味をもって学習が進むよう「かがくの目」を取り入れ、理解を深めるよう工夫されている。</p> <p>○章末に、「学習のまとめ」があり、児童が学習を振り返るとともに学びを生かせるよう工夫されている。</p>	<p>○児童や教師などのキャラクターがセリフで語りかける形式で児童にとって親しみやすく工夫されている。</p> <p>○「もっと知りたい・調べたい」のコーナーでは、発展的な内容が写真とともに示されている。(5・6年p.34～35)</p>	<p>○3・4年「身の回りの清けつや環境」では、生活や経験を振り返る活動や実験などを取り入れ、体験的に理解できるよう工夫されている。(p.11、13)</p> <p>○5・6年「不安やなやみへの対処」では、具体的な専門家からのアドバイスや対処法を載せ、児童の不安や悩みが軽減できるよう工夫されている。(p.12～13)</p>	<p>○学習したことを家庭や地域で広げ生かすため「おうちで」「ちいさきで」の表示により活動を促す工夫がされている。</p> <p>○5・6年「薬物乱用の害」の学習では、発展として医薬品の正しい使い方を示すことで、中学校での学習との関連が工夫されている。(p.49)</p>	<p>○「友達と」コーナーを設定し、友達と一緒に学習したり、課題解決しやすくなるよう工夫されている。</p> <p>○学習課題と学習の進め方が明確でスムーズに学習が進められるように工夫されている。また学習内容について分かり易く関係づけられた図が示されている。</p>	<p>○関連するページを示し、学習を広げたり深めたりする児童の興味・関心が高められるよう工夫されている。</p> <p>○章末では、「学習の振り返り」「学びを生かして」「明日につながる」と、発展的な学習につながるよう工夫されている。</p>